

おうみ未来塾  
第**11**期生

# 「未来への道しるべ」

Think locally, Act locally.  
It becomes globally.



## 第十一期生 卒塾の言葉

二〇一〇年六月より、地域の課題解決に取り組む「地域プロデューサー」を目指し、多彩な塾生たちと共に学んでまいりましたが、時も過ぎ、卒塾を迎えることとなりました。

塾での講義やフィールド活動は、地域活動への理解を深め、チーム活動においては、チームで立てた企画を実施することで、企画実現の達成感を感じ、また、地域を大切に思う人たちと共に活動することで、ますます地域で活動することのやりがいや面白さを感じることができました。そして、発表会での、塾長やアドバイザーの先生からの的確なアドバイスは、チームの結束力を強め、最後まで充実した学びを支えて下さいました。これらの活動から得た学びは、今後それぞれの塾生の活動を充実させてくれることと存じます。

また、この卒塾式に臨む私たちは、卒塾後も初心を忘れることなく、地域の人に求められるような地域プロデューサーを目指し、これからも学び続けていきます。

最後に、本日、ご臨席賜りました理事長、塾長、アドバイザーの先生方、来賓の方々、事務局の皆様、卒塾生の先輩の皆様、さらには塾生会にご協力いただきました皆様に、心から感謝申し上げますとともに、ご健勝とますますのご発展をお祈り申し上げます。卒塾の言葉とさせていただきます。どうも、ありがとうございます。

平成二十三年一月二日

第十一期おうみ未来塾卒塾生

代表 駒井 絵里子

おうみ未来塾 塾長 北村 裕明 先生



# 「未来への道しるべ」

Think locally, Act locally.  
It becomes globally.

## 目次

塾長・アドバイザー・運営スタッフからのメッセージ	1
2年間のあゆみ	5
未来塾11期生によるサブ講座	11
● 知って体感！ファシリテーションシップ	12
● 人生を成功に導く意識改革セミナー	14
● チームづくり大作戦	16
各グループ活動	19
● ほっとコモンズ	20
● +nico (プラスニコ)	32
● COOLBIWA	38
● 里山腹八分目	48
個人からのメッセージ	59
淡海ネットワークセンター事務局からのメッセージ	84
編集後記	86

# 塾長・アドバイザー・運営スタッフ からのメッセージ



おうみ未来塾 塾長  
**北村 裕明**  
(滋賀大学 理事 副学長)



おうみ未来塾運営アドバイザー  
**岡崎 昌之**  
(法政大学現代福祉学部 教授)

## 分権社会と 地域プロデューサー

東日本大震災は、戦後日本社会の社会経済システムへの大きな反省とその転換をせまっています。すなわち、震災と原発事故による甚大な被害と現在までの復旧の過程は、経済成長を優先目標とし、集権的な社会運営を行ってきたことの限界を露呈したのです。そして、再生可能エネルギーへの大胆な移行に代表される持続可能な社会づくりと、分権的でそれをネットワークでつなぐ社会運営が必要となっているのです。

分権的な社会システムを実現するには、制度改革が必要であることはいうまでもありません。しかし同時に、新しい分権社会を担う人材が必要とされるのです。現代日本の分権改革に先鞭をつけた地方分権推進委員会によれば、分権とは「身の回りのことに関する自己決定権の拡大」であると定義できます。したがって、分権社会を担うには、現代社会の変容をふまえながら、身の回りのことを決定する意思と能力とネットワークを持つ人材が必要とされるのです。私たちは、このような人材を地域プロデューサーと名付け、地域プロデューサーが育つ塾の活動をしてまいりました。

分権社会ではトップのリーダーというより、草の根で活躍するリーダーの量と質が重要となってきます。今回の東日本大震災でも、復旧と復興と立ち向かう草の根のリーダーの役割がいかに重要かを、私たちは目の当たりにしてきました。

卒業された皆様が、分権社会の担い手として、地域プロデューサーにふさわしい活動に取り組まれることを期待します。

## 明日の近江は集落の力で

11期生の皆さんが、塾生として経験された2011年は、近世以降の日本が経験した諸々の災害の中でも最大級のものでした。災害を目の当たりにして、地域プロデューサーを目指す立場としても、多くのことに思いを馳せられたことでしょう。

私自身も、発災直前の3月8、9日、仙台市内で会合を開き、平成23年度の東北地域まちづくり支援について打ち合わせを終えたばかりでした。被災した三陸沿岸から福島県にかけて、岩手県田野畑村、大槌町、宮古市、遠野市、宮城県気仙沼市、福島県南相馬市、浪江町等々、多くの友人や知人を持っていますし、調査や仕事で通い続けたこれらの市町村が、筆舌に尽くし難い災害を受け、茫然自失といった状況でした。

日本の国富からすれば、東日本大震災の被害額17兆円～20兆円（内閣府発表）は、高々0.6～0.7%に過ぎないという統計もあるようです。確かに現政権やマスコミには、日本の力を過小評価し、隣接する国々を見習うべきとの、安易で間違った論調が目立ち過ぎます。もちろん亡くなられた方や被災された方々のことを考えると、経済計算上の割合だけで、今回の大震災を位置づけることはできません。

それ以上に、日本が秘めている力や持続力は、日本の各地域を構成している個別の集落と、そこに生き続けようと決意している人々の中にこそあるのです。同じ言語、文化を永きに渡って継承してきたそれら集落と、集落が形成してきた自然と風土に立ち返り、明日の近江を創出して下さい。



おうみ未来塾運営アドバイザー  
**岸田 眞代**  
 (パートナーシップ・  
 サポートセンター (PSC)  
 代表理事)



おうみ未来塾運営アドバイザー  
**藤井 絢子**  
 (NPO法人  
 菜の花プロジェクトネット  
 ワーク 代表)

## 次なるステージを描いて

ご卒業おめでとうございます。

全国でもめずらしい、複数年かけた地域プロデューサーとして育ち合う(“養成”でも“育てる”でもない!)塾、というおうみ未来塾の試みは、滋賀県だからこそできた画期的なしくみと言えます。

卒業生の多くの方が、卒業後さまざまな活動を展開しており、それが、地域を、滋賀県を支えているというのは、滋賀から離れた地に住む者としては実にうらやましい限りでもあります。

その未来塾に、11期生のみなさまが誕生しました。10年間続けた後1年間の検討期間を経て、期間を少し短縮し、集中できる環境をめざし装いを新たに再出発したのです。その新未来塾が、成功したのかどうか、私たち未来塾にかかわる者にとってたいへん関心のあるところですが、まだまだ未知数。きっと改善点もあるだろうと推察しています。

11期生が、体験した想いや声をきちんと届けていくことも、未来塾で学んだ塾生としての責任でしょう。もちろん、未来塾で学んだことを、地域で、自分の持ち場で活かしていくことが、それにも増して私たちの期待するところであるのは言うまでもありません。まさにみなさまのこれからの活動に注目する所以です。

未来塾の活動が、楽しくてしかたなかった人、逆に苦しんだ人・・・それぞれの想いを抱えて、次のステージが始まります。未来塾の経験を土台に、次なるステージをしっかりと描き着実に前進していかれることを、心から願い応援しています。

## 人と地域の未来可能性を拓く

11期生の皆さま、卒業おめでとうございます。

2011年3月11日は日本のみならず、世界の歴史に大きな負の刻印となって残るに違いない。20世紀の産業構造、技術、ライフスタイルなどへの痛烈な一撃と言えましょう。

今こそ、生き方と生きる場のラディカルな問いなおしが必要になりました。“地域”を核とした人と人、人と自然、人とくらし、人と生業等、今までの続きではなく、未来を見据えたつくりなおしをしなければなりません。

言わば歴史の転換点に、11期生の皆さんは地域プロデューサーとしての研鑽の一步を体験できた事を誇りに思うと同時に、記憶にとどめてほしい。

「里山腹八分目」、「+nico」、「ほっと commons」、「COOLBIWA」いずれのチームも、“チーム力”の観点からみると、かなり苦勞しているようで、グループ一人ひとりの個性を生かし、地域をプロデュースすることの面白さはこれから、と期待します。私自身がこうありたいと思っている故日高敏隆さんが遺された“人と地域の未来可能性を拓く地域プロデューサーたれ”を卒業生の皆さんの指針としてほしい。

さて11期生の今期は、おうみ未来塾カリキュラム変遷の初年度でした。塾生の皆さんにいく分かのとまどいが見えました。

10期生までの2年間のプログラムを16カ月とし、その間に「基礎実践コース」で地域プロデューサー、地域マネジメントなどを見につけ、「創造実践コース」で、いよいよ主体者、当事者としてテーマを設定し、グループ活動実践、という濃縮プログラムは11期生にとってどうだったのか。塾長・アドバイザー・運営スタッフ・事務局、各々の立ち位置や塾生との関係など、12期生に向け、是非先輩11期生の皆さんからアドバイスをいただきたいと思います。

地域プロデューサー未来塾のメンバーは湖国しがの誇りです。ますます地域の中で光る存在になることを願っています。



おうみ未来塾運営スタッフ  
(おうみ未来塾1期生、  
セブドセップス代表)

澤 孝彦

## どんどん地域に入り、 学んだことを活かして下さい。

11期生のみなさん、卒業おめでとうございます。1年と約半年間のおうみ未来塾はいかがでしたか。よく、「地域プロデューサーって、何？」という話になりますが、人それぞれに考え方も行動も違うように、「地域プロデューサー」像も人それぞれ違っていいと思っています。

でも、地域づくりは一人では出来ないの、いかにして、みんなと一緒に歩調をあわせ活動していくという心の技術とエネルギーを身につける必要があります、その心の技術とエネルギーはやはり経験や人とのネットワークから生まれてくるものと思っています。

地域にどんどん入って地域の課題、問題を発見し仲間と行動していく中で、きっと、おうみ未来塾で学んだことが活かされるでしょう。どうぞ、健康に気をつけてがんばってください。



おうみ未来塾運営スタッフ  
(おうみ未来塾8期生、  
NPO法人びわ湖豊穡の郷 事務局長)

日下部 純子

## 其々の地域プロデューサーへ向かって

爽やかに晴れた晩秋の一日、「守山市はたるの森資料館」のホタルの森一帯で、「水辺の楽校」を開催しています。園児・小学生と保護者約40名の参加者へ、ホタルの森でのオリエンテーリングや竹パン作り、焼き芋の体験が今日の内容。鮮やかな紅葉と足元の無数の木の実、落ち葉を踏みしめる音や美味しそうな焼き芋の匂い。これら五感で感じた今日の体験が、子ども達の将来の自然を大切に思う気持ちへと繋がることを願いながら。地域プロデューサーの域にはまだまだですが、「継続は力なり」を信じ活動している毎日です。11期生の皆さん、未来塾で学ばれた事を活かしながら其々の地域プロデューサーを目指し、継続して活動されることを願っています。



おうみ未来塾運営スタッフ  
(おうみ未来塾5期生、  
NPO法人ライフステージ支援ネット  
ワーク 理事)

小久保 弘

## 地域に新しい風を！

新しい公共、共生社会など従来の地域での活動も節目に来ているように感じます。11期生の特長は若く、会社員の方が多かったこと。その若さとビジネス感覚は、同期生のシニアメンバーの智慧も加え、更に強化出来ると思います。地域プロデューサーとして、地域に溶け込む泥臭さも重要な要件ですが、柔軟な発想、地域のシニアを引き込む突破力は貴重です。成果発表会でもありました住民・顧客主点の意識、組織としての行動意識、収入を自ら確保しなくてはならないと言う志向は、更に高めてもらいたいと思います。

まだNPO法人、活動団体の力は弱く、今までのような何でも行政頼りの時代は過ぎつつあります。各人の力を磨き、次への時代に活躍してもらいたい。



おうみ未来塾運営スタッフ  
(おうみ未来塾9期生、  
RINRIEデザイン 代表)

堤 理恵

## 仲間と共に地域活動を楽しんで

11期生の皆さんご卒業おめでとうございます。運営スタッフとして、二年間ご一緒できたことを嬉しく思います。

この未来塾では、地域に入る大変さと楽しさを学んだことと思います。また同時に、仲間と企画した活動も大事な糧になっていることでしょうね。未来塾での出会いは、今後の活動でも助け合える大事な存在です。決して一人では、地域は変えられません。思いっきり仲間に関わらしましょう。今後も地域CCとして、仲間や地域の方々と一緒に活躍されるのを楽しみにしています。

最後に、私自身、地域に関わる機会が減っていたので、皆さんと様々な地域問題を語り合えることができ嬉しく思っています。出産の為、卒業式に出席できなかったのが心残りですが、またどこかで皆さんとお会い出来るのを楽しみにしていますね。

# 2年間のあゆみ

# おうみ未来塾11期生 2年間のあゆみ (2010年6月～2011年10月)

## (1) 本講座の経過

### ■入塾式

◇日時：2010年6月13日(日) 14:00～17:40

◇場所：県民交流センター305会議室

テーマ：湖国のまちづくりを考える

●おうみ未来塾初代塾長

日高 敏隆先生開講年講義より朗読

●開講記念講義

「湖国のまちづくりを考える」 講師：木村 至宏さん(近江学研究所所長)

●11期生自己紹介

●オリエンテーション

●交流会



### ■本講座①

テーマ：「湖国の地域をプロデュースするとは」

◇日時：2010年7月4日(日) 9:30～17:00

◇場所：近江八幡市立マルチメディアセンター、  
白王町公民館

◇内容：講義：「湖国の地域をプロデュースする」

講師：北村 裕明さん

(おうみ未来塾塾長)

講義・ワークショップ：「市民活動とICT」

講師：藤田 知丈さん

(おうみ未来塾7期生、マルチメディアセンター所長)

講義：「ウィリアム・メレル・ヴォーリズ展in近江八幡について」

講師：村西 耕爾さん(おうみ未来塾6期生)

講義：「水郷を活かした農の里づくり」

講師：白王町営農組合

フィールドワーク：権座(ごんざ)



### ■本講座②(合宿1日目) テーマ：「地域診断法」

◇日時：2010年7月18日(日) 10:00～16:30

◇場所：新旭公民館

◇内容：講師：風見 正三さん

(滋賀県立大学近江環人非常勤講師・宮城大学教授)

鵜飼 修さん

(滋賀県立大学准教授、近江環人専任講師)

◇フィールドワーク：地域診断で資料を読み解くための海津まち歩き

◇宿泊先：高島市畑地区「農家民泊体験」



■本講座③ (合宿2日目) テーマ:「地域を協治する意味」

◇日時:2010年7月19日(祝)9:30~15:30

◇場所:高島地域地場産業振興センター

◇内容:講師:真野 毅さん(兵庫県豊岡市副市長)

伊庭 盟代さん(高島市商工会女性部部长、おうみ未来塾4期生)

青谷 章さん(マキノ高原観光株式会社代表取締役)

◇フィールドワーク:結び目の「田舎暮らし体験施設風結い」見学

◇「たかしま生き物田んぼ米」の取り組みに関して:

講師 梅村 元成さん(たかしま有機農法研究会 代表)

■本講座④ テーマ:「地域に学ぶ1 社会起業について考える」

◇日時:2010年8月29日(日)10:30~15:00

◇場所:近江八幡市沖島

◇内容:フィールドワーク:沖島めぐり、沖島資料館

講義:沖島の取り組みについての講座

講師:藤井 絢子さん

(おうみ未来塾アドバイザー、NPO法人菜の花プロジェクトネットワーク代表)

梶田 由胤さん(株式会社日吉総務係長)

■本講座⑤ テーマ:「地域に学ぶ2 地域ビジネスの組み立て方について」

◇日時:2010年9月25日(土)9:30~17:00

◇場所:大津市木戸市民センター

◇内容:講義・ワークショップ:

地域ビジネスの組み立て方

講師:曾根原 久司さん

(NPO法人えがおつなげて代表理事)

講義・見学:北比良グループの取り組みについて

講師:山川 君江さん(北比良グループ)

フィールドワーク:ほっとすていしょん比良、手作り工房比良の里



■本講座⑥ テーマ:「地域を創る1」

◇日時:2010年10月9日(土)9:30~16:30

◇場所:湖北水源の郷づくり、

森林文化交流センター

◇内容:フィールドワーク:余呉バスに乗って余呉周辺のフィールドツアー

湖北水源の郷づくりの取り組みについて

講師:伊吹 恵鐘さん(財団法人湖北水源の郷づくり理事長)

余呉バスの取り組みについて

講師:木下 重樹さん(株式会社余呉バス代表取締役)

余呉での多彩なまちづくりの取り組み

講師:三國 佳未さん(MIKUフラワーワールド)

「ウッディパル余呉の取り組みについて」

講師:辻川 作男(おうみ未来塾1期生、ウッディパル余呉支配人)

農山村・集落から考える地域経営・まちづくり

講師:岡崎 昌之さん(おうみ未来塾アドバイザー、法政大学現代福祉学科教授)



■本講座⑦ テーマ：「地域を創る2」

◇日時：2010年11月7日（日）

◇場所：長浜城博物館会議室

◇内容：講義：長浜市の中心市街地の  
まちづくりについて

講師：吉井 茂人さん

（長浜まちづくり株式会社コーディネーター）

講義：「地域を創る オリエンテーション」

講師：中川 芳江さん（株式会社ネイチャースケープ専務取締役）

フィールドワーク：長浜の中心市街地 黒壁



■本講座⑧ テーマ：「地域を創る3」

◇日時：2010年11月7日（日）13：00～17：00

◇場所：県民交流センター301会議室

◇内容：ワークショップ：地域の課題解決をする  
ために自分たちならどうするか

◇講師：中川 芳江さん

（株式会社ネイチャースケープ専務取締役）



■本講座⑨ テーマ「合意形成とグループ分けについて」

◇日時：2010年12月11日（土）10：30～17：00

◇場所：県民交流センター302会議室

◇内容：ワークショップ：合意形成とグループ分  
けについて

講師：岸田 眞代さん（NPO法人パートナーシップサポートセンター代表理事）



## （2）グループ活動について

■下記4 グループに分かれて活動をスタート

里山腹八分目／+nico／COOLBIWA／ほっと commons

■グループ活動目標発表会

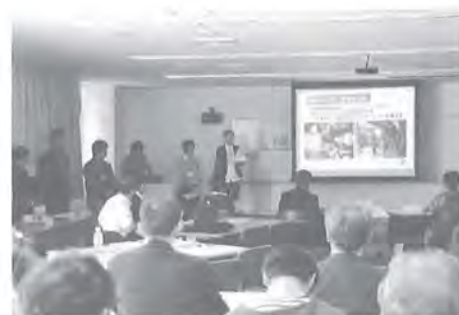
◇日時：2011年2月6日（日）13：30～16：50

◇場所：コラボしが21中会議室1

◇講師：北村 裕明さん（おうみ未来塾塾長）

おうみ未来塾アドバイザー（藤井 絢子さん、岡崎 昌之さん）

◇内容：各グループが活動計画を発表し、塾長、アドバイザー、運営スタッフによるサポートを受けた。



■中間報告会

◇日時：2011年6月12日（土）13：00～16：40

◇場所：県民交流センター305会議室

◇講師：北村 裕明さん（おうみ未来塾塾長）

おうみ未来塾アドバイザー（藤井絢子さん、岡崎昌之さん、岸田真代さん）

◇内容：各グループがこれまでの活動の中間発表をし、塾長、アドバイザー、運営スタッフによるサポートを受けた。

## ■成果報告会・卒塾式

◇日時：2011年11月12日（土）13：00～17：45

◇場所：県民交流センター207会議室・206会議室

◇講師：北村 裕明さん

（おうみ未来塾塾長）

おうみ未来塾アドバイザー

（藤井 絢子さん、岡崎 昌之さん、岸田 真代さん）

◇プログラム 1. 11期生成果発表会

2. 卒塾生事例発表

- 西岡 信夫さん（6期生、ピワマスを琵琶湖のシンボルに育てる会）
- 松崎 和弘さん（8期生、合資会社ドットラボ 代表）
- 松井 賢一さん（1期生、湖北農業農村事務所 農産普及課）
- 澤 とし江さん（10期生、おうみこっとな夢つむぎ 代表）

3. ディスカッション：地域をプロデュースすること

4. 11期生卒塾式



## （3）全体塾生会について

全塾生で構成する全体塾生会を月一回程度開催して、塾運営について協議を行っている。また、居住地域によって「湖西・大津」「大津・県外」「湖北・湖東」「湖南」の4つの地域会に分かれ、地域会が、輪番で全体塾生への提案事項の検討や進行などを務めている。

【第1回塾生会】 日時：2010年7月4日（日）16：00～

場所：近江八幡市立マルチメディアセンター

内容：基礎実践コースのグループ分けについて

情報共有ツールの利用方法について

合宿について

報告書について

【第2回塾生会】 日程：2010年7月18日（日）

場所：新旭公民館

内容：合宿について

【第3回塾生会】 日程：2010年7月19日（月・祝）

場所：高島地域地場産業振興センター

内容：3回の講義を終えて

塾生会、世話人会の在り方について

今後のカリキュラムについて

【第4回塾生会】 日程：2010年8月29日（日）

場所：近江八幡市沖島コミュニティセンター

- 【第5回塾生会】 日程：2010年9月25日（土）  
場所：木戸公民館
- 【第6回塾生会】 日程：2010年10月9日（土）  
場所：ウッディパル余呉 森林交流センター
- 【第7回塾生会】 日程：2010年11月20日（土）  
場所：ピアザ淡海301会議室
- 【第8回塾生会】 日程：2010年11月7日（日）  
場所：長浜城博物館会議室
- 【第9回塾生会】 日程：2010年12月11日（土）  
場所：ピアザ淡海302会議室
- 【第10回塾生会】 日程：2011年2月6日（日）  
場所：コラボしが21中会議室1  
内容：目標発表会準備
- 【第11回塾生会】 日程：2011年4月24日（日）10：30～15：30  
場所：琵琶湖博物館  
担当：里山腹八分目  
内容：琵琶湖博物館見学
- 【第12回塾生会】 日程：2011年8月6日（土）10：30～17：00  
場所：旧大津公会堂、びわこ競艇  
内容：競艇場見学 競艇初心者講座

※上記の全体塾生会の他、合宿準備・目標発表会準備・全体塾生会準備などのために4つの地域会が各地で会合を行っている。

#### （4）サブ講座について

テーマ：「知って体感！ファシリテーションシップ」

日程：2010年10月31日（日）

場所：ピアザ淡海和室

講師：廣水乃生さん（コミュニティファシリテーション研究所代表）

テーマ：豊かな人生を育む意識改革セミナー

日程：2010年11月28日（日）

場所：野洲市まちづくり協働推進センター

講師：田中正晃さん（サクセス・プランニング京都 代表）

テーマ：「チームづくり大作戦」

日程：2010年12月26日（日）

場所：ピアザ淡海和室

#### （5）世話人会・代表者会の経過

- 地域ごとの各グループ1名が世話人となり、塾生会および発表会の運営方法等について連絡調整を行っている。（2ヶ月に1回程度開催）

# 未来塾11期生によるサブ講座

# 知って体感！ファシリテーションシップ

2010年10月31日（日） 9：30～16：45

@ピアザ淡海 三階和室

講師：コミュニティファシリテーション研究所

廣水乃生（のりさん）

おうみ未来塾11期生18名／参加者31名のうち

## ◆講師自己紹介

### ●組織の専門家

自称グループオタク 今までに様々なグループを観察してきたグループの振る舞いをつかみ、次に何が起こるか仮説を立てる

### ●交渉解決の専門家

キーワード：楽、世界平和、多様性

- ①身近な平和と心の平和が世界平和につながる！
- ②多様であると組織が強くなるが、時にもめる。しかしそこで生じる人間関係のもめごと、豊かさの基盤
- 米国プロセスワーク（※）研究所大学院卒
  - ①グループ・ファシリテーション
  - ②個人・ファシリテーション
  - ③人間関係・ファシリテーション

## ◆ファシリテーションとは

### ●ファシリテーション

促進、容易、活性化、円滑

⇒二人以上の状態をどう活性化するか

### ●ファシリテーター

幅広く様々な分野で使われている言葉。

### ●隠れファシリテーション

権限がなくても、グループを元気にすることができる

### ●守秘

誰かの秘密を人に言わないこと & 自分が話したくないことを話さないこと

自分のボーダーには慎重になること。本音との調整が必要

### ●インサイダー・アウトサイダーを確認する

参加者が、どの所属、何でここにきたかなどを確認例。未来塾、トランジションetc

知ることによって参加者も安心

新メンバーが入ってきたとき、仲間にしていく作業としても重要

### ●コンテンツファシリテーションとプロセスファシリテーション

（会議の中身、議題を掴んでいる）（プロセスにおいて生じる出来事に対応）

## ◆自分の熱に責任をもつ（自分の本音に気づく）

### Exercise. 1

#### ①組織の中で自分がやっている仕事を以下二つに分類

- 自分が自主的にやっていて、いくらでもできること
- やらなくてはならないこと

#### ②やらなくてはならないことについて

##### Q1. やめることができるか

⇒Yes やめたほうがいい

No なぜやめられない？ ⇒ Q2へ

##### Q2. 自分以外の人に任せられるか

⇒Yes 任せたほうがよい

No なぜ任せられない？ ⇒ Q3へ

##### Q3. 代替案はないか（自分が熱をもてるやり方は）

⇒No ⇒ Q4へ

##### Q4. 全部Noなら、本当にしたくないことですか？

※やりたくないことは誰がやる？

そういったことをしょってけている人もいて成り立っていることにも注意

### 責任レベル

レベル1：意図していないことを自覚的に生きる

レベル2：自分の反応を選択できる（出来事と反応



の間に責任がある)

レベル3：自分のした結果を引受ける（結果によっては行動の停滞を生む）

#### ◆人間関係に取り組むーランクの構造と活用方法ー

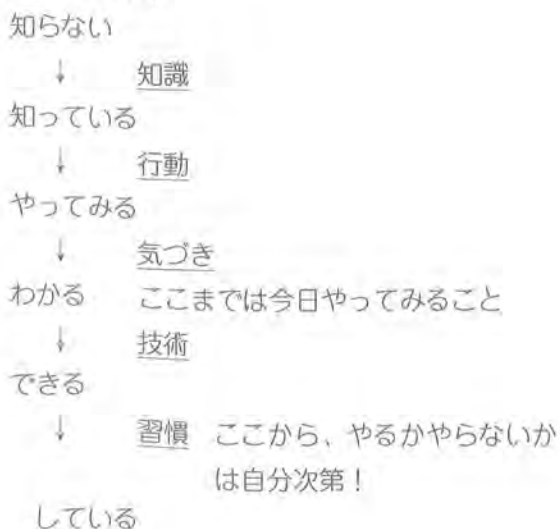
- 自分のランクを知る  
自分が気づいていないことには要注意。  
自分にとっては普通でも、相手には普通でないことがしばしば 例、右利き左利き
  - ランクがもつ性質
    - ①相対性 所属する集団によって変わる
    - ②多様性 男女のランク+上司・部下のランク+心理的ランク
  - 自分だけが被害者でなく、自分が上回っているランクが必ずある
  - 心理的ランクは見えにくい、見えにくいこここそ活用すべき
  - 社会、構造的ランクが低い⇔心理・スピリチュアルランクが高くなることが多い  
例、社会的に低い立場の女性が自分たちの不利益に気づき行動！
  - ③可逆性 のりさんの持論。構造的ランクを逆活用  
初心者であるがゆえ、わからない部分を質問しやすい（初心者ランク高）
- ➔総じて、自分のランクが高い部分はみんなのために使う、低い部分は回りに助けてもらうべし。ランクの高い、低いは決していい、悪いではない。

#### 番外編・のりさんに質問！コーナー

Q. 今日の講義から学びを続けていくコツは？

A. 以下のプロセスを把握。

#### 〈学習のプロセス〉



#### 〈タイムラグを利用〉

視点を持って振り返る

どうすればよかったんだろう？

もうその現場はないが、タイムラグを縮める練習をする

➔タイムラグを5秒に縮めれば、その場で実践できるようになる

Q. 講演、例えば今日の講義で、ねらい、おとしどころは想定しているか？

A. ある。それを参加者にもきちんと伝えておく。そこにどう到達するかが問題  
全員が意図を理解しておくことは組織においても重要

#### おまけ♪おすすめ文献

- 長尾彰「塾議ファシリテーション」文科省のHP上にマニュアルあり
- アーノルド・ミンデル「紛争の心理学」講談社

#### 意図と目的

コミュニティは、二人以上人がいればコミュニティは生まれる

コミュニティを作っただけなのに、自分だけでなく、コミュニティを共有しようとする仲間と一緒に理解をしておくコミュニティ作りが円滑に進めやすくなります。

#### サブ講座を通して（のりさんの言葉より）

人が二人いれば、意見の相違が起こるものです。

チームの中でもめごとが起こるのは当たり前。

ケンカをするのは楽しい事ではないし、傷ついたりするのも嫌だから、なかったことにしたり、避けずまいがち。

めめごとはチャンスです。

本音を聞いたり、つながりを深めたり、

根本にある問題を発見できたり。

チームが生まれ変わったように機能し始める。

めめごとに取り組み、解決にみちびくスキルと視点。

めめごとに隠された宝物を希望にみちて探している貴方がいるかもしれませんね。

## 人生を成功に導く意識改革セミナー



皆さん地域で職場で対人関係に悩んでいませんか？

地域プロセスは自身のもちティベーションを高め、周りの人との信頼関係を築いていくことから始まるのでは……。

そこで、埋もれた潜在能力を掘り起こし、ヤル気を起こさせ、人生を成功に導く意識改革セミナーを11期生のサブ講座として実施しました。



### 開催概要

題 名：人生を成功に導く意識改革セミナー

日 時：2010年11月28日（日）午後1時～5時

会 場：野洲市まちづくり協働推進センター

参加人数：14名

講 師：田中正晃 さん



疲れた心をすっきりクリアにして、活力を生む。そんな内容でたっぷり時間をとってご教授いただきます。

### ■講師プロフィール

昭和55年 私立高等学校（数学／理科）・私立大学（行動科学）を歴任。

昭和63年 世界行動科学自己啓発活動団体（SMI）にて活動。

平成4年／6年 世界自己啓発活動プレゼンテーション世界チャンピオン獲得

平成7年 有限会社サクセス・プランニング京都設立

立命館大学卒業後、京都大学にて行動科学の研修生として研究。

高校教員、大学講師10年の後、全ての人間は本来豊かな能力を持っていることに注目。

その埋もれた潜在能力を掘り起こし、ヤル気を起こさせ、人生成功に導く方法を研究して10年。

現在、21世紀、心の時代の考え方・心構えの育成を目標とした、管理者養成、社員教育及び人間活性化（ヤル気づくり）などを脳生理学、心理学また、自らの教職経験とセールス経験を通して指導。目下10余社の社員教育にも取り組み、その効果は各界から注目されている。講演・セミナーの内容は、モチベーションと目標の段階的実現方法、心理学をもとにした自己表現をテーマにしており、頭で単に理解するのではなく、体で実感してもらうことを狙いとするもので、特にそのエネルギッシュな講演は、一般企業及び教育関係団体を始めとして、全国で感動の渦を巻き起こしている。





## 「人生を成功に導く意識改革セミナー」 内容

### 第1講 「自分」とは何か

- ①ティッピングポイントについて
- ②ユングによるペルソナ、ロジャースによるセルフイメージ
- ③マズロー説
- ④ジヨハリの窓
- ⑤どれが一番私らしいか
- ⑥自分を思いどおりに変革する方法

### 第2講 説得上手になる(1) 聞き上手になる方法

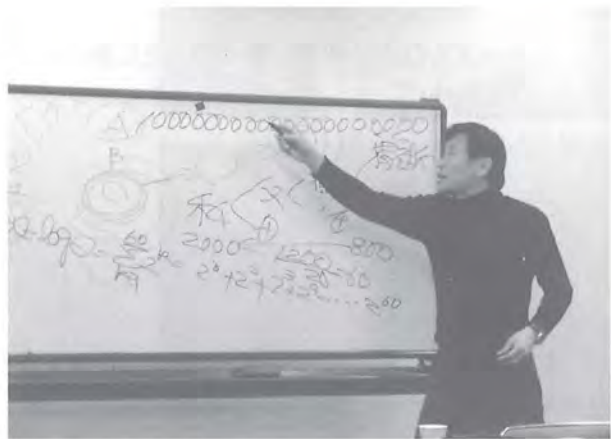
- ①なぜ聴くのか
- ②聴き方訓練
- ③聴きながら誘導する

### 第3講 説得上手になる(2) 話し上手になる方法

- ①話す法則
- ②FABの法則
- ③詰めの技術

### 第4講 自ら自分をやる気にさせる方法

- ①ピンチをチャンスに変える方法
- ②不思議な心理学 トランスパーソナル心理学
- ③逆境をチャンスに変える10のまとめ



# チームづくり大作戦

日時：2010年12月26日（日） 9：30～16：30（昼食・お茶・おやつ・各自持参）

昼食時もチームで話し合い

場所：ピアザ淡海 3階 和室

※ドレスコード：蜂（場の和みになりますので遊び心満載でお遊びにお付き合いいただければ幸いです。）

参加者18名

9時：淡海ネットワークセンター集合

準備物の確認

9時過ぎ：会場入り（準備物持参）

●中央テーブルひとつ準備：テーブル上に裏紙の束と、カラーペン

●テーブル利用による、模造紙ボードセッティング（マスキングテープ）

記録；ムービー：和尚

写真：ほっこ～

順次受付：水谷「輪になってお座り下さい。」

名簿準備：徳ちゃん

後見人：村やん

9時半：WS開始

●今後のスケジュール：徳ちゃん

●今日のスケジュール：徳ちゃん

●「チームづくり大作戦」の説明：村やん

●「作戦」：水たん

**始める前に（チェックインタイム）**

トイレ休憩

**WS開始**

ワークショップの形式OSTの説明

みんなで、思いを紙に書いて共有したりシャッフルしたり、深めたりしてゆきます。

**作戦Ⅰ「お熱を出しきる」**

テーマを提供

サインを入れて発表してください。

いくつでも結構です。

**一斉サイン会**

全ての用紙に遠慮なく、ゆっくりと時間をかけて目を通す。

- これには、深く関わって取り組みたい。
- ちょっと興味有るから、話だけでも聞いてみたい。
- 考え方としては共感する。
- 何か有ったら関わってみたい。
- 知り合いを紹介したい。
- 情報を教えてもらいたい。
- 教えたい情報が有る。
- どんなインスピレーションでもOK！何か感じたもの全てに、サイン

**トイレ休憩**



## 作戦Ⅱ「スッキリする」

輪になって座る

サインをじっくりと見る

みんなで共有したみんなのものです

テーマをひとり一つだけに絞る

それぞれのテーマを下げることに「ちょっと待った」の方

自分のテーマを下げて「待った」

「ちょっと待った!!」の方

一人ひとつに~なりました

10までのテーマに絞って行きます。

テーマを確認

**絞込み**が出来ました。

### ジョイント（合体）

似ているところは？

ジョイント出来そうなところは有りませんか？

どのテーマに取り組むか？

お店を広げて頂きます

提案者に質問など

テーマを出した方は、情熱を持って話し合いに取り組んで下さい。

3人以上であれば成立

お弁当を食べながら、最初のテーマの席で話し合い

午後からは、別のテーマに移動

テーマを出した方とテーマとお昼を食べながら話をする場所を確認

ランチタイムMTGは、外でも、ラウンジでもどこでもオッケーです。

模造紙とカラーペンを持って、グループ内のことを書き留める

しっかりと情熱を持って、積極的に話してくださいね！

### ランチタイムMTG

## 午後の時間

お昼に話したところと違うところのグループで話してもらいます。

## 作戦Ⅲ「芽を出す」

蜂の説明

蜂は蜜を集めに次から次へと、花から花へ移ります

蜜を吸いながらお尻を丸めて、雄蕊と雌蕊がくっつくようにお手伝いをする

蜜を集めるのではなく貢献しに他のところへ花から花へと移ってゆく

別のテーマに移って貢献

### トイレ休憩

活動場所決定

最終チームでの話し合い

各チームの発表

～チームづくり大成功～

一日を振り返って

## 作戦Ⅳ「お花を咲かせよう」チームでスタート

遠藤さんのケーキで各チームの話し合い

## 各チーム代表会議





おうみ未来塾って?!

~どんなことをしているのか興味ありませんか?~

# おうみ未来塾 第11期生 活動マップ

+nico(プラス・ニコ)  
**福祉×デザイン**

障がい者と健常者の  
心のボーダーをなくす!

COOLBIWA  
**国際交流でまちづくり**

外国人の視点で  
滋賀の魅力を再発見!

里山腹八分目  
**環境保全活動**

水源の里山から  
びわ湖までをつなぐ!

ほっと commons  
**居場所づくり**

大津百町の魅力を発見して、  
まちを好きになるきっかけづくり!



# 各グループ活動



ほっと commons  
HOT COMMONS

# 地域とつくる!

## 「ほっと」交流スペース再構築事業

中塚 洋子 (風さん)

村上 真規 (村やん)

水谷 友香子 (みずたん)

藤本 宏 (藤モン)

奥村 元 (元ちゃん)

名越 文代 (なごママ)

徳永 操 (トクちゃん)



縁・対話・共有・想い・持ち味・おたがいさま・熱・責任・信頼



## ほっと commons HOT COMMONS

### メンバーの持っていたもの

メンバー全員が人の意見を頭ごなしに反対や否定をしなかった

お互いに手を差し伸べあっていた

みんなで話せるようにしていた

## 私たちが大切にしたい～チームとしての土台づくり～

### はじめる前に(ちえっく いん たいむ)

ミーティング前には、「はじめる前に」という時間を必ず持った。

その時間は、今の思いや体調、みんなに伝えたいこと、最近の出来事など話したいことを自由に談笑。

例えば、体調が悪いことをこの時間に伝えることで、フォローし合える関係が自然と生まれた。

### 放課後

「放課後」と称し、時間がある人たちで、寄り道をして和菓子屋や、  
カフェでお茶とおしゃべりを楽しんだ。

### 一見ムダと思える時間の共有

ミーティング後のコミュニケーションを通じて、少しずつ相手を知る時間を積み重ねていった。

### ～効果～

活動の方向性をじっくりと話し合ってきたことで、  
メンバー間の輪が築けたとともに、活動を楽しもうという気持ちが  
ひとりひとりの中に芽生えた。

### ～課題～

一見ムダだと思えることが、とても有効な時間であった「はじめる前に」や  
「放課後」など、今後の活動の場で取り入れる。

### ～最後に～

私たちがチームとしてのまとまりを大切に、チームづくりを怠らなかつた。  
できることに関しては怠らず、できない時はできるように自らが取り組んだ。

# 1. ほっと commons 活動の目的

私たちは、「地域=コミュニティ」と、とらえ、まちづくり大津百町館（以下「百町館」）を取り巻くコミュニティの課題にスポットをあてました。

その中で、町家の保全・再生や、まちなかの活性化などに取り組む市民団体「大津の町家を考える会」と連携。大津の歴史、文化を次世代に継承、まちの賑わいを取り戻す活動に取り組みました。

## 百町館を拠点とした コミュニティづくり

「世代間交流が可能な居場所づくり」をコンセプトに、大津の町家を考える会、商店街、大学、地域の人と連携し、百町館を拠点としたコミュニティづくりを行う。



### 人と人をつなぎ、コミュニケーションを円滑に、まちに沢山の笑顔を増やす

子どもたちと地域を巻き込んだイベントをすることで、人と人をつなぎ（導線づくり）コミュニケーションを円滑にし、まちに沢山の笑顔（ワクワク）を増やす。



### まちの資源を活用し百町館のファンやサポーターを増やし広げる

イベントで得た、まちの資源を加工・活用し、百町館を拠点としたまちづくりの運営にたずさわるファンやサポーターを増やし広げる。



## 活動の背景

- ・京の都を支え、「人・もの・お金」が流通してきた歴史ある大津の町並みが失われつつある
- ・現存している商店の後継者がいない店がある
- ・大津に立ち寄った人が「憩える場所」が知られていない
- ・世代間交流、新・旧住民間のコミュニケーションの機会が少ない

## 百町館を支える「大津の町家を考える会」のニーズ

- ・百町館の保全・再生
- ・百町館を支える人（ファン・サポーター）を増やしたい
- ・大津百町への人の流れ、まちの賑わいを取り戻したい



## 2. 私たちの活動フィールド



地図:「大津百町大写真展ガイドブック」より

### 「百町館」って？

「百町館」は、滋賀県大津市の中心市街地に位置する。

明治32年(1899年)生まれで、おおよそ百年前の建物です。母屋、蔵、離れと中庭で構成されています。母屋には随所に町家の特徴がみられ、井戸は現在も使用されています。また、大店の奥座敷が自由に見学できる大津で唯一の町家です。

### 「大津百町」の歴史・概要 「大津歴史博物館 HP」より一部抜粋

大津の地名は、大きな港(津)に由来し、すでに平安時代、都への物資を中継する港として重視されていた。豊臣政権下に築かれた大津城が関ヶ原合戦でその役割を終えると、城は膳所に移され、大津は城下町から商業都市へと変貌。その繁栄ぶりは「大津百町(おおつひやくちょう)」と称された。



百町館大広間

### 百町館を支える「大津の町家を考える会」概要

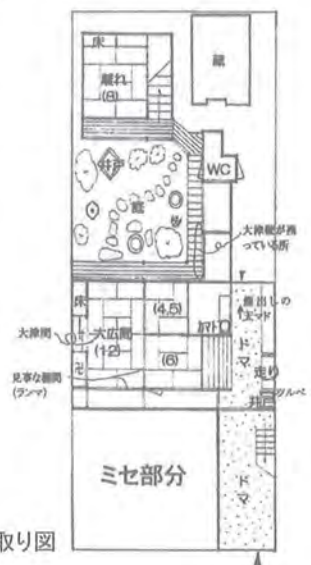
「大津の町家を考える会」は、大津のまちに残る町家の存在を広く認識し、まちの活性化と心地よいまちづくりのために、町家の活用や保存などを目的に平成9年7月5日に発足した市民団体です。

### 「大津の町家を考える会」活動内容

- ・大津市中心部の町家マップの作成と販売
- ・書籍「大津百町物語」(サンライズ出版)の編集・発行
- ・平成13年6月9日に、大津の中心部にあった空町家を「まちづくり大津百町館」としてオープン
- ・「百町館運営委員会」を設置し、メンバーがボランティアで、来館者の案内や館の管理にあたる
- ・地元の祭りや商店街の行事に参加
- ・市民や観光客など、多数の見学者が来館、個人や市民グループなどによる独自の企画を開催し、広く市民や観光客に出会い交流と機会を提供するとともに町家や、まちなかについての学習や意見交換を行う



百町館 Facebookページ  
(大津の町家を考える会会員作成・管理)



百町館間取り図

## 3. ほっと commons 主な活動記録

個別活動も含め、総活動日数：72日

2010年12～2011年1月 チームの土台づくり

2011年

1/29	百町館でのヒアリング、商店街散策・視察
2/12	大津路地裏散策、ヒアリング・視察
2/17	大津の町家を考える会とミーティング
2/19	大津百町市視察
2/20	景観・まちづくりシンポジウム「地域情報の発信」分科会参加 (個別活動・情報収集)
2/27	大津の町家を考える会ヒアリング
3/1	立命館大学ボランティアセンターでお話を聞く
3/3	大津の町家を考える会、大津まちなかもりあげ隊の鈴木さん (未来塾10期)ヒアリング
3/8	みらいもりやま21(石上さん)へまちゼミについてお話を聞く
3/20	浜大津こだわり朝市の視察
4/16、 17	百町館にて、大津・町家アースデイ市主催 (個別活動・ネットワークづくり)
4/29、 5/24	レイカディア大学とまち歩き(個別活動・ネットワークづくり)
4/29、 5/06	おおつ環境フォーラムと立命館大学による「大津百町街歩き」に参加 (個別活動・ネットワークづくり)
5/7	子どもたちとのまち歩きリハーサル
6/12	おうみ未来塾中間報告会
6/15	大津の町家を考える会メンバーとミーティング
6/25	百町館にて、寄席見学
7/28	大津の町家を考える会メンバーの灯りづくり視察・ヒアリング
7/25、 8/22	大津の町家を考える会運営会議出席
8/21	のりさんファシリWS 本音で語り合う地域コミュニケーション ～ちがいを愉しむファシリテーション～企画・主催(ネットワークづくり)
8/23	おおつ環境フォーラムとまち歩き合同ミーティング
8/26	町家ロンロン(龍谷大学) まち歩きに参加(ネットワークづくり)
9/4	大津の町家を考える会、おおつ環境フォーラムとまち歩き企画合同ミーティング
9/17	「のらねこ団のおおつ百町宝さがし」開催
9/19	大津の町家を考える会運営会議にて「のらねこ団のおおつ百町宝さがし」の報告
10/1	「のらねこ団のおおつ百町宝さがし」で立ち寄ったお店へ挨拶 (関係強化、ネットワークづくり)
10/6	百町館にて、龍谷大学学生と大津祭「宵宮」手づくり鉄砲当てもん



様々な活動を通じ、少しずつ「大津の町家を考える会」との関係を深められました。



## 4. 具体的な活動と課題解決 ほっとコモンズ活動基盤概念図



私たちは、活動の計画段階で、軸となる「目的(ミッション)」「目標」「ビジョン」を共有してきました。その総まとめとして、「ほっとコモンズ活動基盤概念図」を作成しました。

また、今後の展開として、「チャレンジ企画」を大津の町家を考える会と進める上での羅針盤の役目を持っています。

「知ってもらう」→「楽しむ」→「ファンになる」というサイクルは、スパイラル状に成長しながらパワーアップして回っていきます。

## 5. 具体的な活動と課題解決 まち歩き企画編 01



おうみ未来塾11期



ほっとコモンズ 子ども特派員企画



# のらねこ団のおおつ百町宝さがし!

### ねらい

子どもの記憶(思い出)に百町館・大津のまちをインプット

- ・百町館をただの活動拠点ではなく、「秘密基地」として子どもの興味を引く
- ・子ども目線の仕掛けをつくり、楽しんで(ワクワク)してもらう

子どもの感じたワクワクを外部(周辺住民や家族・友達)に発信し、百町館・大津のまちのファンを増やす

- ・子どもの口コミや立ち寄った商店へのフォローなど、情報発信の土台をつくる
- ・百町館で、宝地図の展示を行う

子どもの自主性を引き出す

- ・まち歩きのコースは決めず、宝地図も白紙の模造紙上に描いてもらう
- ・大人が子どもと競争して楽しむ

### 発案のいきさつ

当初、子どもたちと一緒に、まちの人に「うわさ話」を聞き出そうと始まった「子ども特派員企画」だが、まちなかを散策する中、路地裏で「のらねこ」に出会ったことがきっかけで、私たち自身を「のらねこ団」と呼ぶようになった。そんななか、おおつ環境フォーラムとの出会いにより、「子ども特派員企画」が「まち歩き企画」となり、「のらねこ団のおおつ百町宝さがし！」と発展していった。

実施日時:2011年9月17日(日) 9:50~15:00

実施場所:まちづくり大津百町館、大津市中央・菱屋町・長等周辺

同時開催:おおつ環境フォーラムの景観チーム及び情報システムチームとの合同企画により実施

- 「おおつ市民環境塾」の一講座:楽しい「まち歩き」で???を見つけよう!(景観チーム)
- まち歩き、地図づくりの模様をUstream配信(情報システムチーム)
- 大津の町家を考える会「オーガニックカフェ」開催

参加者・スタッフ・協力:子ども7人・大人10人

[主催]ほっとコモンズ [連携団体]大津の町家を考える会/おおつ環境フォーラム [協力]大津まちなかもりあげ隊/おうみ未来塾11期有志/淡海ネットワークセンター

#### Aチーム(10人)

所属	性別	地域
のらねこ団(1年生)	女	大阪府
のらねこ団(4年生)	女	大阪府
のらねこ団(5年生)	女	大津市(青山小)
のらねこ団(6年生)	女	大津市(青山小)
ほっとコモンズ	女	大津市(中央)
ほっとコモンズ	女	大津市(南郷)
ほっとコモンズ	男	守山市
淡海ネットワークセンター	男	長浜市
未来塾11期有志	男	大阪府
未来塾11期有志(環境フォーラム所属)	男	大津市

#### Bチーム(7人)

所属	性別	地域
のらねこ団(2年生)	男	大津市(中央小)
のらねこ団(2年生)	男	大津市(中央小)
のらねこ団(3年生)	男	大津市(長等小)
ほっとコモンズ	男	大津市(膳所)
ほっとコモンズ	女	野洲市
未来塾11期有志	女	野洲市
未来塾10期有志(大津まちなかもりあげ隊)	男	大津市

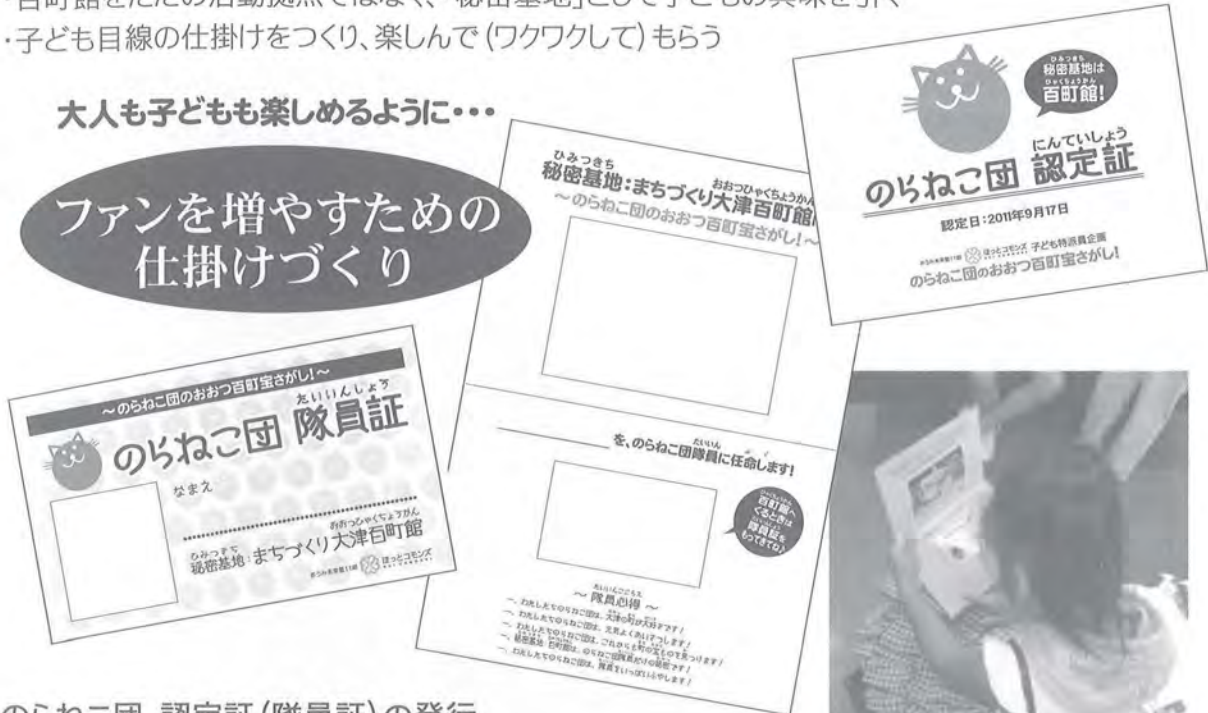
## 6. 具体的な活動と課題解決 まち歩き企画編 02

### 子どもの記憶(思い出)に百町館・大津のまちをインプット

- ・百町館をただの活動拠点ではなく、「秘密基地」として子どもの興味を引く
- ・子ども目線の仕掛けをつくり、楽しんで(ワクワクして)もらう

大人も子どもも楽しめるように・・・

ファンを増やすための  
仕掛けづくり



のらねこ団”ころえ”暗記中!?

### のらねこ団 認定証(職員証)の発行

- ・イベントでのワクワク感を忘れないためのお土産アイテムに
- ・家に持ち帰り、家族や友達へワクワクを発信するためのツールに
- ・後日、百町館や商店を訪れたときのパスポートに

### 百町館探検(宝もの探し)の様子

ねーねー、次、いつやるの?



初! 井戸体験



もしもし・・・アッ通じないや



認定証授与式



おどさんに火入れ



古時計の説明に真剣な子どもたち



女の子はミシンがお気に入り

## 7. 具体的な活動と課題解決 まち歩き企画編 03

子どもの感じたワクワクを外部（周辺住民や家族・友達）に発信し、百町館・大津のまちのファンを増やす

- ・子どもの口コミや立ち寄った商店へのフォローなど、情報発信の土台をつくる
- ・百町館で、宝地図の展示を行う

### 商店とのつながり ～おつかい企画～

チーム対抗「500円でおもしろいおやつを買ってこよう」企画

普段は素通りしてしまう商店に、子どもたちに興味を持ってもらうことが目的



三井寺力餅本家さん



丸岩さん



八百与さん



山本花店さん(大津マート)



丸二食品さん



九重商店さん



八百正 住若フルーツ ベジタブルさん



坂本屋さん



お店で、おやつゲット!!

宝地図を百町館に展示

また、遊びにおいで!

お世話になった店主さんに宝地図を届けに...



九重商店さん



山本花店さん(大津マート)



## 8. 具体的な活動と課題解決 まち歩き企画編 04

### 子どもの自主性を引き出す

・まち歩きのコースは決めず、宝地図も白紙の模造紙上に描いてもらう

### 子どもの目線と アイデアを大切に

合言葉「白みそ・にゃー」や「のらねこステップ」生まれる

合言葉「白みそ・にゃー」や「のらねこステップ」など、のらねこ団というキーワードから、子どもたちの発想により広がり、チームとしての結束が生まれた。



白みそ  
にゃ〜



のらねこ  
ステップ



「のらねこ団のおおつ百町宝さがし」の子どもたちの感想

### 考察（まとめ、今後の課題）

#### 百町館と大津のまちの関係

百町館は、大津のまちなか——それも商店街の中に位置する町家である。そのため、百町館を単体でアピールするのではなく、「大津のまちと一緒にアピールしたい」という意図でまち歩きを行った。

結果、数店ではあるが、子どもたちが商店をまわり、買いものを通じて交流ができた。

今後、回数を重ねるにつれ、宝地図を百町館に展示するだけでなく、「かわら版」のようなものを発行することで、子ども視点によるワクワクをロコミで発信していけるのではないかな。

#### 百町館・大津のまちのファンを増やすことについて

イベントの参加者（大人・子ども）については、ワクワクを感じてもらい、次回を期待するほどの成功だったと考える。

また、認定証（隊員証）は、「家族に体験談として語る際に活用した」と参加者から聞いた。

今後は、継続的に実施していくことが必要であると考えている。



「のらねこ団のおおつ百町宝さがし」の様子

## 9. 今後の活動 チャレンジ企画編 *to be continued...*



おうみ未来塾11期



ほっとcommons チャレンジ企画

# のらねこ団のスパイ大作戦!

ひみつち  
秘密基地は  
ひやくちょうかん  
百町館!

”のらねこ団”とは、「のらねこ団のおおつ百町宝さがし!」から生まれた、「百町館と大津のまちなかを元気に!」をミッションとする秘密組織!?

のらねこ団は、百町館を「秘密基地」と位置づけ、そこから出発してまちを探検、様々な「任務」を遂行しながら、まちを知る活動を楽しみ、みんなに伝えることとする。

### ねらい

チャレンジ企画を担うメンバー(のらねこ団・ファン)の育成

- ・百町館・大津のまちの「ファン倍増計画」(にぎわいを取り戻す)
- ・小学生と大学生の「小大連携」など、世代間交流を行う

のらねこ団が自発性、自主性をもって活動

- ・周辺の人、商店、団体を巻き込み、のらねこ団自身が活動を計画する
- ・子ども自身が自分の「場所」にする

百町館店スペースの活用

- ・のらねこ団の活動拠点(秘密基地)とする
- ・のらねこ団が自然と百町館に集まれる場づくりを目指す

「のらねこ団」といえば百町館



のらねこ団 隊員証

### 発案のいきさつ

まち歩きチーム「のらねこ団」が百町館を拠点とし、多くの刺激を受けたことで百町館が彼らの「居場所」として結びつき、当初別企画であったまち歩きと、チャレンジ企画が関連性をもつこととなった。

さらに「のらねこ団」という名称、「のらねこ団隊員証」などのアイテムから、子どもたちが自発的に「のらねこ団の世界」を展開し、その世界観を共有した隊員同士には固い絆が生まれた。

### 活動計画(案)

諜報活動 = まちの秘密調査・聞き込み(まち歩き)

工作活動 = 装備の製造・調達、補給(おもちゃ・小道具づくり、昼食づくり)

扇動活動 = チラシ・かわら版・まち歩きマップづくり・ないしょ話(情報発信)

・指令通達会議…「のらねこ団招集指令」をポスティングし、のらねこ団の秘密会議を行う

・まち歩きで交流をしたお店に「のらねこ団 スパイ完了!!」シールを貼らせてもらうなどを通じて、地元の商店、住民、素材、逸材などとの交流や、それらの発見を行いつつ、百町館周辺のお店や人々を巻き込んでいく

・子ども自身が自分の居場所・立ち位置をつくるようにする

・子どもたちの口コミや立ち寄った商店へのフォロー、情報発信の土台づくり、アイデアを引き出すなどサポートに徹する



ゴム鉄砲(工作活動)



「のらねこ団スパイ完了」シール(案)

## 10. 成果と課題・今後について

### 活動の成果 失敗を恐れずに取り組んだことが、成果へとつながった

・「ほっと commons がやりたいこと」と「大津の町家を考える会のニーズ」の接点を見つけられ、活動をともにする土台が築けた



- ・今後の活動は、大津の町家を考える会が行うことになり、継続できる体制になった  
[チャレンジ企画の他、百町弁当(商店街巻き込み弁当)の企画が既に取り上げられている]
- ・子どもの発想により、のらねこ団の企画の幅が膨らんだ
- ・子どもの自発性、自主性を今後の活動の軸に置き、世代間交流への道筋がひらけた
- ・子どもたちとの出会いにより、まちづくりの未来に希望を見い出せた

### 課題・今後について

- ・百町館を拠点としたコミュニティづくり「チャレンジ企画」を今後、行動にうつしていく
- ・「チャレンジ企画」を一過性のイベントとしてではなく、人を巻き込んで確実に積み上げていく

#### 「チャレンジ企画」今後の活動計画(案)

「ミセ部分(空きスペース)」を活用して、世代間交流事業を月1回開くことができるようにする。という当初の到達目標が達成できなかったため、今後「チャレンジ企画」が目標達成に向け活動を開始する。

1. のらねこ団の指令通達会議
2. のらねこ団の秘密会議1
3. のらねこ団の秘密会議2
4. 諜報活動開始

#### 卒業後のほっと commons としての関わり方と、組織図



地域住民・商店街はホストでもあり、キャストでもありうる「自分ごと」として、まちに貢献する存在となってほしい。

# + nico

福祉 × デザイン

大橋優子 (キャサリン)

山本泰裕 (やっさん)

柴田雅美 (さみさん)

私たちは、

「デザインの手で福祉の現場を変えたい」という思いのもと、活動を始めました。障がいのある子どもたちが将来働く場がないという現実を知り、その解決に社会的使命を感じたことに始まります。

メンバーは湖北・湖東地域の4名で、皆がもともと福祉やデザインに関心があったわけではないですが、地縁的な意識のもとで、問題意識と活動内容に共感しながら自然と集まりました。

私たちは、当初、グループのミッションを次のように決めました。

## 【当初のミッション】

### ●大きなテーマ：

障がい者と健常者の心のボーダーをなくす。

### ●活動の目的：

デザインと企画力を加えた、市場（地域）で選ばれる商品の創造を通じて、作業者がものづくりに誇りを感じ、働く自信・生きる力を育む。

### ■活動のスタート：作業所のデザイン支援

グループ結成とほぼ時を同じくして、社会福祉法人・湖北会との縁ができ、法人が製造している食品のパッケージデザインの見直しや今後の事業展開についての相談を受けました。デザインによる事業支援を通じて、作業者（障がい者）の働き甲斐・生き甲斐の創出するという目的で、まず作業所で製造されている豆



伊吹作業所でのデザイン打合せ

腐のパッケージデザインに取り掛かりました。この約1年の間、作業所の方たちとも和気あいあいとした雰囲気の中で、ゆっくりと着実に事業を進めてきています。

### ■最初の壁：メンバーの「もやもや感」

この、デザインで作業所の支援を行うという取り組みの事業化を目標に、社会起業家育成を目指す edge 助成金へのチャンレンジや、未来ファンドおうみ助成金の獲得を果たしました。

しかし、作業所との関わりが深まるにつれ、豆腐の売上アップを図りたい私たちと、売上



大室先生のご指導

にはこだわらない作業所との考え方のズレが明らかになりました。また、助成金チャレンジの中での様々なメンターとの出会い、指導を通じて、「本当に必要なのは、障がい者だけでなく、誰もが生きやすい社会・働く場・生活の場を創ることなのではないか？」という問題提起が起こりました。

メンバーに「もやもや感」が生まれ、目指していたものが分からなくなりました。十分な時間をかけずにグループの活動軸を決定してしまったことが、事業途中での「もやもや感」発生の原因だと考えています。

■**転機**：メンバーの人生の棚卸→“同士”へその折り、未来ファンドの途中指導として、淡海ネットワークセンターの市民事業化支援アドバイザーの大室先生にご指導いただきました。

このことで、私たち+nicoは大きな転機を迎えます。

ご指導にもとづき、私たちは、思いの共有のために、各自人生の棚卸をすることになりました。

各自が棚卸を行い、その内容をメンバー全員に赤裸々に告白することで、改めてメンバーのバックグラウンドを理解し、“思い”を確かめ合うことができました。

この時が、+nicoのメンバーが“同志”へと変化した瞬間です。

■**ミッションの決定**：紆余曲折の末の大事な通過点

私たちの共通するキーワードとして、  
未来、子ども、弱者、地域、農業、環境、  
アート、人権  
などが見い出されました。

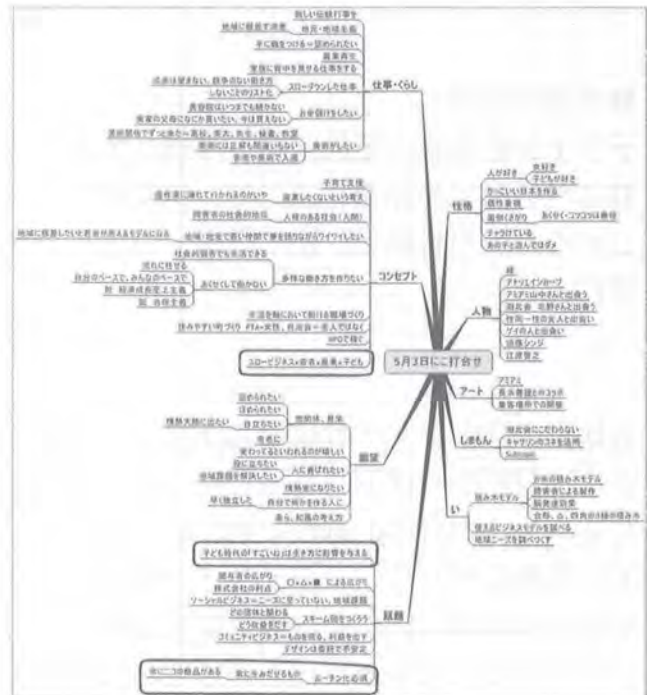
また、  
「みんなにニコニコしてもらおう」  
「誰かのために何かしたい」



メンバーひとりひとりの棚卸披露



全員の棚卸一覧



全員のマインドマップ

「夢を持ってもらう」

「日本の未来に希望を持ってもらう」

といったことが、メンバーの共有ミッションとして確認できたことから、私たち+nicoのミッションを次のように決定しました。

【ミッション】

「私たちは、あらゆる人々がその人それぞれの夢を描ける『キャンパス』を提供する」

そのため、私たちメンバー一人ひとりが、水流を生み出す人・未来を描く力を与えられる人になります。

紆余曲折を経て、ようやくこのミッションにたどり着きました。

エッジ助成金へのチャレンジ、未来ファンドおうみ助成金の獲得も、本当に大事な通過点であったと思います。

■現在の活動：2つの事業

新たなミッションを実現するため、2つの事業を進めています。

【事業その1】

「作業所デザイン支援の継続」

これまで取り組んできた「豆腐パッケージのデザイン」をさらに進めていきます。

デザインが私たちの事業の目的なのではなく、作業所に関わっていくツールです。

このツールを使い、作業所で働く障害者、職員の皆さんが、未来の夢を描けるキャンパスを提供したいと思います。

私たちが豆腐のデザインや商品開発に関わり始めて、施設長に

「+nico が作業所に来てくれたおかげで、職員の豆腐への取り組みが少しずつ積極的になってきた」と語っていただけただことも大きな

伊吹の逸品

もめん

大豆まるごと製法です

■名称/もめんとうふ ■原材料名/大豆(滋養成分)、凝固剤(塩化マグネシウム、硫酸カルシウム、グルコン)消泡剤  
 ■内容量/300g ■保存方法/要冷蔵(10℃以下)  
 ■使用上の注意/早めにお召し上がり下さい。■消費期限/表面に記載 遺伝子組換え大豆は使用していません。  
 製造者 滋賀県米原市春照 1969-1  
 (社)湖北会 いぶきやま 藤の根工房 〒525-0001 滋賀県米原市春照  
 TEL 0749-58-1533 FAX 0749-58-1624 4 562124 260020

伊吹の逸品

きぬ

大豆まるごと製法です

■名称/絹ごしとうふ ■原材料名/丸大豆(滋養成分)、凝固剤(塩化マグネシウム、硫酸カルシウム、グルコン)消泡剤  
 ■内容量/300g ■保存方法/要冷蔵(10℃以下)  
 ■使用上の注意/早めにお召し上がり下さい。■消費期限/表面に記載 遺伝子組換え大豆は使用していません。  
 製造者 滋賀県米原市春照 1969-1  
 (社)湖北会 いぶきやま 藤の根工房 〒525-0001 滋賀県米原市春照  
 TEL 0749-58-1533 FAX 0749-58-1624 4 562124 260013

伊吹の逸品

黒ごま

大豆まるごと製法です

■名称/黒ごま入りとうふ ■原材料名/丸大豆(滋養成分)、黒ごまペースト、凝固剤(塩化マグネシウム、硫酸カルシウム、グルコン)消泡剤  
 ■内容量/300g ■保存方法/要冷蔵(10℃以下)  
 ■使用上の注意/早めにお召し上がり下さい。■消費期限/表面に記載 遺伝子組換え大豆は使用していません。  
 製造者 滋賀県米原市春照 1969-1  
 (社)湖北会 いぶきやま 藤の根工房 〒525-0001 滋賀県米原市春照  
 TEL 0749-58-1533 FAX 0749-58-1624 4 562124 260037

励みになっています。  
 これが11月に発売される豆腐のパッケージデザインです。約10カ月をかけた、作業所職員さんとの共同作品です。  
 他にも、現在、売場のポップ、チラシ、暖簾、保冷車等のデザインの依頼を受け検討中です。これまでは完全なボランティアでしたが、今後の事業化を見据えて、販売促進も含めどのような関わり方がよいのか法人と協議を始めているところです。

【事業その2】  
 「障害者アートイベントの実施」

長浜のAmiAmiクラブ(障がい児の余暇支援活動グループ)との連携によるアートイベント「KOHOKU アール・ブリュット展」を、今年12月18日に、浅井文化ホールにて開



催します。  
 +nicoとしては、アート作品展示、障がい者と健常児者によるワークショップなどを企画しています。  
 この取り組みの私たちのテーマは「アートの力で、障がい者や地域の方に夢のキャンパスを提供すること」です。  
 当初は、長浜市のフォーラムと長浜市社会福祉協議会の大会に、私たちのアートイベントを合体し、一つのイベントとして、実行委員

**みんなでアート WORK SHOP**

**クリスマスオーナメントを作る (ツリーの飾り物)**  
 10:00~10:45  
 13:00~13:45 **美術室**  
 14:00~14:45  
 各回定員20人 材料費200円

**さき織をしよう** **小ホール2**  
 10:00~10:45  
 11:00~11:45  
 各回定員10人 材料費200円

**街を作ろう** **小ホール1**  
 10:30~12:00  
 定員25人 材料費200円

申込は当日先着順です。持ち物はいりません。ご参加いただけます。

**第2回**  
**長浜市社会福祉大会**

と  
 平成23年12月18日(日)  
 午前9時から  
 と  
 浅井文化ホール

**みんなのアート** 同時開催

**KOHOKU アール・ブリュット展**

アール・ブリュット(生の芸術)とは、伝統や流行、教育などに左右されず自身の内側からわきあがる衝動のまま表現した芸術のことを言います。今回は湖北在住の未来の作家を中心に、立体や平面の作品を展示します。作家の心の声との対話をとお楽しみください。

**浅井文化ホール・小ホール3** **9:00 - 15:00**

主催：KOHOKU アール・ブリュット展実行委員会  
 後援：滋賀県、長浜市、長浜市社会福祉協議会、ボーダレス・アートミュージアム NO-MA

会形式での企画運営を目指していましたが、市と社協との調整の結果、3つの異なる主体によるイベントの「同時開催」という形式に落ち着きました。

現在、amiami クラブ代表を委員長として、amiami クラブと+nico で実行委員会を立ち上げ、数名の協力者・賛同者を巻き込みながら企画を進めています。

また、事業内容を対外的に説明する機会が増えたため、組織基盤整備の一環として、広報用のパンフレットを作成しました。随時更新していく予定です。

### ■実践を通しての 学び・気づき

・作業所の職員、障がい児の親という“当事者性”と、私たちの地域プロデューサー（＝“部外者”）としての思考・手法とが、なかなか折り合いがつかなかったり、目指す方向が違ったりと、一歩間違うとこちらからの価値観の押し売りになりかねない。まずは、相手のことを深く知るためにも、ゆっくり時間をかけて向き合うことが大切だと思った。

・少人数であっても合意形成は本当にむずかしい。合意形成は一度やれば万事OKではなく、万事のためには万事の合意形成が必要だった。

・主役は地域（当事者）、プロデューサーはわき役・エンジンのかけ役と考え、主役のサポーターになることを目指した。活動を通じて当事者とサポーターの関係、サポート（支援）とは何かと考えることが多かった。当事者はその分野のプロであり、プロにその分野で正攻法に支援を申し出ても、「余計なこと」になる。例えば、nico がある事柄について A さんを支援することは、その事柄については A さんより nico の方ができそうなことがある（nico>A さん）と思って活動する。しかし、



広報用パンフレット

大事なことは A さん自身もそのよう（nico>A さん）に認識していること。そのことで支援が成立すると思う。その事柄について A さんが、nico≤A さん という認識であるとき、それは支援ではなく、押しつけ・余計な事だと理解され、反発される。当事者にとっての課題・不足をどう気づいてもらえるか。しかも自然に。そこが出発点になるのだと思った。

### ■おうみ未来塾卒塾後は・・・

「私たちは活動を通じて、関わる人それぞれが自分の夢を描けるキャンパスを提供する」というミッションのもと、未来、子ども、弱者、地域、農業、環境、アート、人権などのキーワードによるコミュニティデザインを“事業化”したいと考えています。



# Cool Biwa

外国人の視点から、クールな地域の魅力、再発見！！

<https://www.facebook.com/coolbiwa>

## ★member★

枝元 重樹 (大津市) えだもん  
尾賀 隆 (大津市) おがっち  
梶 卓司 (大津市) かじさん  
中川 正夫 (大阪市) ぼぶさん  
堀江 景子 (大津市) ほりえもん  
山口 智大 (茨木市) ぐっさん  
吉田 遊介 (大津市) よしださん

# 1. 活動計画

## 活動目的

外国人の視点で滋賀の魅力をあぶりだすことで、滋賀県民が滋賀の持ち味を再発見し、自分たちの文化や歴史、環境に誇りが持てるようになる。

## 設定課題・背景

- ・滋賀県下で活動している企業・団体と、滋賀県在住外国人との情報共有の場がない。
- ・外国人のニーズを的確に把握した観光資源が少ない。
- ・外国人に滋賀の知名度が低く、「観光客」として誘致できるだけの魅力も伝わっていない。

## 活動内容



### I. 県内外国人とのネットワークづくり

#### 目的

滋賀に思い入れがあり住んでいる外国人に、なぜ滋賀？と魅力を聞きだし、外国人から見た滋賀を再発見する。滋賀に来た外国人の心を動かすにはどうすればよいか、ニーズ調査の一環とする。

#### 手法

メディアや、人の紹介で知った滋賀を愛する外国人を訪問。ざっくばらんに話しながらヒアリング。

#### 成果

ツアーのヒントとなる場所、モノが見つかった。その人のこれまでの体験、人生観から見た滋賀を知ることができた。沖島はマンハッタン?! など、私たちではできないような発想にも驚かされた。

# 滋賀のクールな外国人のみなさんに聞きました!!

## ★日野で町並み保全に取り組むアメリカ人★

- ・ 民宿は、京都から近い、1つの場所にまとまっているといったことから将来性がある。
- ・ 近江商人の町をめぐるツアー。ひとつの町だけだと半日もかからないが、3つの町回ることで宿泊も見込めるのでは？
- ・ 三方よし、CSRの故郷ともいえる滋賀。近江商人の精神、工場見学を組み合わせ、海外企業等の視察を受け入れては

## ★滋賀に魅かれ音楽活動を続けるスイス人★

- ・ 海外から琵琶湖ホールに来る一流の役者にも大津を楽しんでもらわないと損
- ・ 外国人には自分で体験する旅行が受ける・電話すれば参加できる、毎日やっているツアーはグッド！
- ・ 大津の魅力を簡単なチラシでいいのでホテルにおくと効果あり
- ・ 何を食べるか+食べる場所、雰囲気も重要

## 滋賀の魅力は？

## 滋賀を海外に発信する

## アイデアって？

## ★県内大学の留学生支援団体に所属する中国人★

- ・ 「NO.1」というのに興味をわくと思う。滋賀にNO.1が多いのなら、それを打ち出すべき
- ・ 留学の思い出に、郷土の料理を地域の人と一緒にクッキングもおもしろそう
- ・ 侍、忍者はマンガの影響で知名度あり
- ・ 留学生は、イベント等に参加すればみんな楽しむ

## II、協働パートナーづくり

### 目的

県内の国際交流関係の団体、外国人を受け入れようとしている団体のニーズ、状況を知る。情報共有できる部分がないかを探る。

### 手法

県内の国際交流関連団体を訪ねる。未来塾OBなどの縁から、さらに紹介してもらいパートナーの輪を広げていった

### 成果

国際交流団体の間での相互の連携は活発でないことがわかった。例えば、国際関係で大津にあるという共通点はあっても、お互いの活動を知らないことも多い。また、彦根など、南部以外の地域で活動している団体では、もっと滋賀県全体で見た交流があればいいのという声があった。

目的・手法

全世界の利用者が多い Facebook を使い、集めた情報の発信の場、今まで会った人との双方向のやり取りの場に。

成果 発信活動、データの分析



Facebook ページを使うことにより記事によるいいね！の反応数や国や都市や年齢や男女比などが容易に把握することができた。記事は複数人で管理することが可能でメンバーで手分けしてそれぞれの得意分野を発信しました。よりソーシャルな情報発信が可能となった。

おまけ

普段は仕事を持つメンバーが一箇所に集まっての頻繁なミーティングは難しく、IT ツールを使って、場所と時間を越えて有効なディスカッションをしました。

skype スカイプ

毎週木曜 PM10:30 はスカイプ会議の日と決めて、音声会議を行いました。データは参加メンバーが各々 Google ドキュメントに持ち込み、それを見ながら意見を出し合いました。

Google ドキュメント

各メンバーが集めてきたデータを格納したり、その場で同時編集し、報告書等の作成に役立てました。

Dropbox

メール添付で送れない大きなデータのやり取りに有効なツール。

Ⅳ、ミニツアーの実施

目的

外国人の視点からみた地域のおもしろい部分、はっとするエピソードを発掘する

手法

知り合いの外国人の友人に同行依頼。ツアーの中身はこちらが用意し、ツアー終了後フィードバックをもらう。

成果

細かなフィードバックをもらえていない部分もあるが、一緒に町歩きをする中で、外国人の目に留まったものやコメントから、こんな見方があるんだ、という発見がいくつもあった。

2011/5/22

インドネシアからの留学生を迎えて  
大津湖西を中心に案内

大津駅出発 (11:30)

西教寺 (12:00)



境内に同じ頭巾をかぶったお地蔵さん

おごと温泉観光公園 (12:50)



足湯で一休み

伊香立香の里資料館 (13:30)



インドネシアにも同じような農機具がある  
そうです

ほつとすていしょん比良 昼食 (14:15)



テラスで昼食です。宗教上の理由で食べ  
られないものに注意。

白鬚神社 (15:15)



景色を堪能

浮御堂 (16:15)



インドネシア語で書かれた絵馬を偶然発見!

琵琶湖大橋米プラザ (17:00)



このあと琵琶湖大橋を渡って湖岸をを走り、近江  
大橋を渡りました。

大津駅 到着 (17:30)

ツアー後、大変楽しかったと感想をもらいました。  
また、母国のインドネシアと似た田園風景や、インド  
ネシア語で書かれた絵馬に出くわすなど滋賀県に親  
近感を感じたそうです。

COOLBIWA

2011/9/18

京都在住3年目のドイツ人を  
迎え夜の八幡堀祭りを案内

近江八幡駅出発(17:30)

たねやのバームクーヘンを紹介しつつロープウェイ  
一乗り場へ

八幡山山頂到着(18:30)



このあと20分ほどで、青い空が暗闇に。  
「あれが降りた駅で、新幹線はその奥で  
…。」琵琶湖側は見れなかったものの、  
眼下に広がる暮れゆく街をしばし眺める。

下山 八幡堀沿いをふらり(19:00)

「京都是祭りがあるとすごい人混みだけど、  
ここは全然違って、落ち着いて楽しめる」と。  
これも滋賀の魅力かな。

街中散策 ~歴史民族資料館、白雲館、旧八幡郵  
便局、尾賀商店~(19:30)

古い町並みの通りは何本もあり、文化的な  
建物やお店が点在。「案内がなかったらた  
どり着けなかった！」と二人。

夕食は近江牛定食!(20:00)



とりあえずビールでしょ!乾杯!二人が  
頼んだのは近江牛焼肉定食。  
アメリカ人の友人から近江牛のうわさを聞  
いていたそうで、食べる前に早速メールで  
報告。味はもちろん大満足。赤こんにやく  
を除いてですが…。

近江八幡駅 到着(21:00)

京都在住で、日本舞踊や合気道に精通、ずっと  
日本に住み続けたい!と言っている二人。普段遠  
出はあまりしないそうで、滋賀観光はこれが初め  
て。「近江八幡は、京都の街中とは全然違っては  
ずれた場所にあるけど、でも実はそれが魅力。す  
ごく気に入った」と感想をくれました。

## 2. 活動の問題点

県内在住の外国人、施設・団体等のネットワークづくり活動が一段落ついて、地域の特定をしようとした時に行きづまってしまった。その原因として、下記の要因が考えられる。

### 1. 地域の情報、課題のヒアリングの不足

地域に入っていく際に、地域の情報や課題を把握できていないことは、その後の活動の困難性を浮き彫りにすることになった。

### 2. 具体的なビジョンの共有が不十分

活動目的である地域の人が自分たちの地域に誇りを持ってもらうことを掲げていたが、「地域活性化」について、どのような状態を目指すのかに相違があり、また統一できていなかったことは盲点であった。

### 3. 自分たちができること、やりたいことを優先して活動

例えば、観光や ICT などの活動を先行しており、活動内容をバランスよく掘り下げられていなかった。

### 4. 「外国人」というキーワードに固執し地域との接点がおざりに

「外国人」というキーワードを軸とした活動は、Cool Biwa グループの特徴・特色であるため、こだわることは重要であった。だが、「外国人」ととられすぎて、地域との接点がつくれなかった。

特定の地域を候補としてとりあげ活動しようとしたが、地域に入っていく戸惑いや、地域活動している団体との接点をつくる難しさから、積極的なアプローチができなかった。後半からは、卒業までのスケジュールに間に合うようあわてて発進してしまうこともあり、メンバーの思いを共有する時間を十分に持てていなかったことは反省点といえる。

## 3. 活動の成果

### ★県内在住の外国人や、観光に携わっている団体などとのつながり構築

活動の趣旨に共感してくれる人々とネットワークができた。特に、留学生等を対象としたミニツアーの実施や、情報インフラとしての facebook での発信による実績が大きい。

### ★地域との関わりをもつための基盤を醸成

グループ活動の主軸として、県内外国人とのネットワークづくり、協働パートナーづくり、そして情報発信用インフラづくり (Facebook) に取り組んできた。これらは、今後地域に入っていく際の土台となる。

### ★グループで活動する中での学び

メンバーの考え方や思いを共有できずに具体的に行動すると、それから行きづまってしまいう可能性があるということを学んだ。一見ネガティブなことに見えるが、これも活動中の大切な成果といえる。

## 4. 今後の活動について

今後の目的は、地域で活動している人の支援パートナーとして、われわれのリソースを活用しながらその地域の課題をともに解決することである。

### ステップ1

まず、「土の人」との接点づくりから

主役である地域との接点をつくり、ニーズのヒアリングや情報を収集する。地域の人との交流なくして、地域活動はできないからである。その地域のニーズや課題・問題を的確に把握することは、今後の活動の土台となる。

### ステップ2

地域からのニーズや情報を得た上で、今まで構築してきたリソースを活用

具体的には、県内の外国人や団体・施設による協働パートナー、あるいは情報発信インフラという基盤を用いて、地域にフィードバックする。

### ステップ3

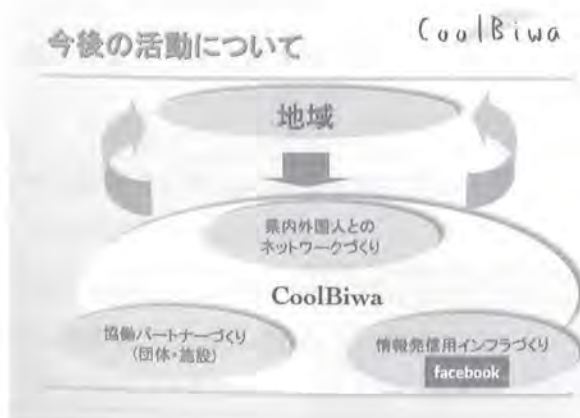
サポート体制の構築、実情に合わせた補強

地域の課題等を吸い上げ、Cool Biwa として培ったネットワークを活用し地域のニーズや実情に即した必要なサポートを行う。現状のリソースで不足している部分に関しては、地域に貢献できるよう適宜追加や対応をしていく。

### それでは、これから地域にどうやって入っていくのか？

⇒ 大津市比良地区で活動している団体にアプローチを検討中！

この地区に絞ったのは、活動している団体とのつながりが既にあり、その団体が情報発信でアピールしたいというニーズがあるからだ。加えて、近年、外国人の居住者が増えつつあること、ミニツアーで案内した留学生の評価が高かったことも決め手となった。活動で培ったネットワークを有効に活用して今後も有志により、活動を継続していくことを考えている。



☆これまでの活動記録☆

月日	活動	場所	内容
1/13	初スカイプ会議		その後、毎週木曜夜に開催
1/23	五環生活	彦根	「琵琶湖岸だけでなく、街中にも足を伸ばす工夫を」
	琵琶湖プラザ 外国人観光客 誘致	守山	「大阪や名古屋、移動する中国人観光客の需要あり？安いので長期滞在で滋賀を拠点にしてみらえる？」
1/25	大津湖西会	大津	国際交流関係団体など先輩から情報をもらう
1/29	町家保存 アメリカ人	日野	「民泊の将来性に期待。近江商人の3町を周る、宿泊つきプランおもしろいかも。」
2/1	フェイスブック ファンページ 立ち上げ		写真などで活動紹介、情報収集。
2/6	目標発表会	大津	大風呂敷敷きすぎの指摘から、活動を絞りこむことに
2/13	競艇場 外国 人観光客誘致	大津	留学生のネットワークの中から、深谷さんを紹介してもらう。ワークショップで意見吸い上げる手法を知る。
2/26	画家 アメリカ人	伊香立	堅田キリスト教会での講演。「美しい景観は環境バロメーター」
3/1	びわこビジ ターズビュー ロー	大津	外国人向けサイト立ち上げの話。京都ほどやられていないが、まとまりのある滋賀の強みを確認。
	県国際協会	大津	市町の国際交流員の情報を入手。
3/13	VOICE	彦根	「外国人観光客は観光よりも人との接点を求める。高島ホームステイ、彦根の芹川並木、足軽で一泊なども高評価」
3/19	大津湖西会 in 百町館	大津	ほっと commons もまじえ、先輩と情報共有。
3/26	立命留学生支 援団体会員	大津	「留学生同士のネットワークはあるが、学校単位。「滋賀のNO.1」で売り込むとわかりやすい」
4/18	音楽家 スイ ス人	坂本	「外国人は体験が受ける。簡潔なイメージ戦略『京都から10分！きれいな湖、Beautiful Nature in Japan』が必要」
5/6	立命学生と待 ち歩き	大津	iPad を使ったまちあるき。コンテンツ、位置情報で普通の待ち歩きに新しい視点を。外国人観光客にも役立つ？

月日	活動	場所	内容
5/22	湖西ツアー★	大津、草津	インドネシアからの留学生を案内。風景がふるさとに似ているとの感想。
6/6	Visitersclub	大津	ビジターズビューロー主催の会合。留学生や観光業関係で活動する人が集合。滋賀の行ってみたい場所を紹介しあう
6/12	中間発表会	大津	目的にあった活動か？何のためのツアー？これまで会ったキーパーソンをまとめるべきとのアドバイス。
7/2	琵琶湖博物館 ナイトツアー ★	草津	Visitersclubの一貫として。ビューローと学芸員とのはしわたしをする。台湾、中国からの2名を案内。
7/17	琵琶湖博物館 はしかけ登録	草津	これでメンバーのうち5名が登録完了。
7/30	Visitersclub ★	大津	留学生とB級グルメバトルへ
8/23	大津市国際親 善協会	大津	草津シップス、NPOなどエスニックコミュニティの情報。
8/25	ボランティア クラブ	大津	外国人に英語の大津ガイドを作っており、大津祭りなど協力できないか相談。
8/31	みらいつくり 隊会員	米原	「地域民俗や農業を外国人と分かち合えたら。米原市の消えかけている踊りを外国人との交流で復活できないか」
	異業種交流会	大津	行政、NPO、観光関係者でニューツーリズムについて話し合う試み。NPOは市場分析に弱いとの指摘も。
9/5	Visitersclub ★	大津	琵琶湖汽船乗船
9/18	八幡堀まつり ★	近江八幡	ドイツ人2名を夜の近江八幡に案内。案内してもらえなかったら絶対見れなかった！と。近江牛にも舌鼓。
9/25	多文化共生フ ェスタ	草津	市町の国際協会やNPOの情報を得る。
10/9	大津祭 ★	大津	留学生を案内。「からくりに興奮した。間近で見れた」
11/12	成果発表会	大津	ニーズをビジョンを明確にして、地域とのつながりを。

★ミニツアー実施で外国人とまちあるき



里山  
八分目  
腹

(おのち) 小野元嗣  
(まつぎ) 牧野宏美

(すみちやん) 橋本すみ江  
(こまちやん) 駒井絵里子

(とみ) 富田宗伸  
(おしろう) 川本哲慎

(ほっこ) 鋒山巳之助

## ◆事業 里山からつなぐ気脈ネットワークの創造

山から湖へのつながりを意識した生活を世代を超えて伝えていくための  
場とネットワークづくり

### ◆目的

- ①湖国の美しい風景と豊かな地域コミュニティを再生（創造）する。
- ②里山の多面的な役割と魅力を（再）発見し発信する。
- ③里山～琵琶湖の自然のつながりを意識した地域のつながり（コミュニティ）を生み出す。

### ◆フィールド

#### ○滋賀県野洲市大篠原の里山

- ・高速道路や国道が近く、京阪神から1～2時間、大津、草津からも車で数十分の位置にある。
- ・大篠原の里山の大半は大篠原生産森林組合（組合員約200人）の所有、隣接している小堤の里山は小堤生産森林組合（組合員約100人）が所有している。（国有林を譲渡）
- ・かつては禿山であったところへ植林している。（土壌はやせている）
- ・大篠原生産森林組合が整備した「森楽校」（野外活動スペース）がある。
- ・山に登れば琵琶湖が見渡せる。南側の隣接地には県立希望が丘公園や花緑公園などがあり、一帯として自然体験ゾーンが広がっている。
- ・光善寺川、日野川を經由して琵琶湖に注ぐ水の水源地となっている。

### ◆課題・背景

- ①里山の荒廃・無関心…地元の人ほとんど山には入らない。危険なところというイメージがある。
- ②林業の衰退…数十年前に植林はしているが、枝打ちや間伐もされず放置しているところも多い。
- ③里山の生活を語り継ぐ人がいない…山の資源を活用する生活はほとんど見られない。
- ④コミュニティ…里山を通しての旧集落と都市部との交流はほとんどない。

琵琶湖岸地域との交流（漁民の森事業）がここ数年継続されている。

地元団体により里山で環境教育や自然体験教室などが開催されている。

### ◆到達目標

- ①地元の方の中から里山案内人・語り部（協力者）を5人以上発掘する。
- ②里山～琵琶湖トレイルのモデルコースを作り、地元の案内人（里山・川・琵琶湖）によるツアーを実施する。
- ③体験学習や遊びを通して多面的な里山の役割を若い世代に伝えるイベントを開催する。

◆主な活動内容

◇8月7日(日) 里山子どもイベント『集まれ!里山KIDS』

目的:①子ども達に里山遊びの楽しさを伝える。(五感を使って体験する。)

②里山から湖への自然のつながりを学ぶ

③大篠原・小堤の里山に関わる団体がイベントを通して交流する



\*\*\*\*\*

◇10月2日(日)『遊んで語ろう!湖・川のこと~子ども達に伝えたい山・川・湖の魅力~』

目的:①湖・川の活動を一緒に体験し、良さを発見する。

→湖と山の繋がりを意識した活動の認識を深める。

②山と湖の団体の繋がりを作る。

→形だけの繋がりではなく、温かみのある繋がりを作る。



◇8月7日(日) 里山子どもイベント『集まれ!里山KIDS』の報告

主催:里山イベント実行委員会

(野洲市環境基本計画推進会議自然・山部会、おうみ未来塾里山チーム)

共催:小堤生産森林組合、大篠原生産森林組合

協賛:小堤子ども会、大篠原子ども会、(社)ガールスカウト日本連盟滋賀県第12団

\*\*\*\*\*

【プログラム】

集合 <<8:30~9:00>>

- ・9:00~9:15 オリエンテーション
- ・9:15~11:30 里山探検(2コースに分かれて出発)
- ・11:30~13:00 竹でご飯き(昼食はカレーライス)
- ・13:00~14:00 丸太の皮むき
- ・14:00~15:00 森のいろいろ遊び・カキ氷のおやつ
- ・15:00~15:30 ふりかえり(寄せ書き・アンケート)

解散 <<15:30>>



里山腹八分目



●参加者 / 合計 64 人

	子ども	大人	計
一般	13	8	21
ガールスカウト	10	4	14
自然・山部会		13	13
応援スタッフ		9	9
里山チーム		6	6
計	23	40	63

◎里山イベント・アンケート集計結果 (抜粋)

<子どもの感想>

いのししのねぐらや、ヤゴ、カニを見つけたり、炭をつくっていたところを見たり、ふだんできないことをたくさんできました。	木の皮むきやカキゴオリを食べたり、たくさんたのしいことができました。	かき氷はとても冷たくておいしかったです。また今度は友だちをたくさん呼んで行きたいです。	森(山)はずずしくて、自然がたくさんあって、川のせせらぎが聞こえて気持ち良かったです。自然はいいなあって思いました。	今日は、山を登らせてもらって、とちゅうでは、さかがあったりすごかったのしかったです！
--	------------------------------------	---	--	--

<保護者からの感想>

・近くに住みながらなかなか自然で遊ぶことがないので、よかったです。	・地元に住んでいながら、山のことも遊びも知らず、よい機会と参加した。遊びも極めたいが、山を守っていく側にもなれたらと思う。	・もっと山歩き、山遊びをさせてやりたいと反省させられる一日でした。楽しかったですね。あのカレーの美味しかったこと！	・ヤゴや水源に感動！	子どもの楽しむ様子も幸せそうでした。来年も期待しています。
-----------------------------------	---	---	------------	-------------------------------

<ガールスカウトスタッフさんの感想>

・市内で里山の存在を知ることが出来、一日自然の中で過ごせたことに感謝します。ぜひ次回も参加したいです。	・身近な所に山があったのに、体験する機会に出会えなかった事を残念に思います。	・普段体験できないことを子どもたちに体験させられたのが良かった。	・思っていたより山が高く、琵琶湖まで見えたことにびっくりしました。	・自然がとても心を和ませてくれました。
---	--	----------------------------------	-----------------------------------	---------------------



◎8月27日(日)里山イベントふりかえり&懇親会実施

会 場：湖南ネットしが(JR 野洲駅前)事務所

参加者：20人

(山部会7人、ガールスカウト2人、未来塾9人、ゲスト2人)



共通の感想

子どもも保護者も大変楽しめるイベントができた！

\*\*\*\*\*

○ガールスカウト団長、副団長



- ・幼少時の思い出は重要。いい機会を提供してあげることの重要性。
- ・みなさんの準備に感謝。
- ・時期が暑すぎるかと思ったが、木陰の涼しさを実感するにはよい面も？
- ・親が楽しむことも重要。(親と子のコースを分けるのもありでは。)
- ・プログラム構成の仕方(コース+自由時間)が重要。
- ・炊飯の役割を与えてもらえてよかった。参加者の大人の方にも、役割を担ったり、準備から関わったりしてもらうのもよいのでは？

○山部会

- ・未来塾がおられたので、コースが2つできてよかった。
- ・地域の人に準備段階から関わってもらえればなおよかった。
- ・山部会の森、スタッフの人数が増えれば、子どもたちが自由に来られる時間を設けたい、という夢がある。

○野洲市役所環境課職員

- ・今回のイベントで、多様な参加者が来られ、子育て、教育などのつながりとなったことがよかった。



◎里山チーム間でのふりかえり

○里山イベントの目的の検証

目的	達成度	検証内容
①子ども達に里山遊びの楽しさを伝える(五感を使って体験する)	◎	「地元の山でこんなに自然が満喫できるとは」との声。
②里山から湖への自然のつながりを学ぶ	△	子ども達は源流の体験ができたが、繋がりという点では内容が薄かった。
③大篠原・小堤の里山に関わる団体がイベントを通して交流する	◎	イベント発信により、ガールスカウトさんと山部会さんが繋がるきっかけに。(11月20日にガールと山部会で里山イベントを実施予定。) 湖や他地域の山での活動が多かった中主(市内の湖岸地域)のガールスカウトさんが、身近な里山を体験できたと、喜んで頂いた。

## ○里山イベントを終えての感想

- ・地元（小堤）の墓参りの日と重なってしまい、地元の子ども会の参加者が少なかった。地元のスケジュールをしっかりと確認できなかったことが、一番の反省点。  
（小堤の森林組合長も、「ぜひ次は地元の子どもたちも呼びたい」との声。）
- ・未来塾が関わったことで、山部会さんが、今まであきらめておられた地元の子ども会への呼びかけが出来た。（参加者からもよい反応。子ども会の行事にしたい、という声も。）
- ・大学生に声かけしたことで、若者も加わることが出来た。（同志社エコプロジェクトの学生、など）
- ・今回のイベントで子どもも保護者も楽しめた要因は、ホストする大人（山が好きで、子ども達にも山の楽しさを伝えたいと考えられている山部会さん）がおられたから。→ホストする大人の存在が重要。

\*\*\* 里山の子どもイベントでチーム本来の目的を達成できたのか？ \*\*\*

### 里山イベントの反省を踏まえて

### 里山と湖とのつながりを考えるきっかけづくりをしよう！

#### ◎湖企画の検討

##### ■湖イベントの内容をどうするか？

山が大好きな大人が主体となったイベント  
だったからこそ、楽しめたのではないかと

⇒ ホストの存在が重要。

山～川・湖までの繋がり、という点では、  
内容が少し薄かったのではないかと

⇒ ホスト(山で活動する人)が自然のつながりを  
しっかり認識していないと伝えられない。

ホスト役の山部会さんは山作業が中心。

⇒ 山で活動する人が知識ではなく、湖・川の良さを  
五感で感じることで山に来る人にも湖の魅力や、  
自然のつながりを伝えられるのでは？

##### ■目的は？

- ①来年の山イベント充実の為の肉付け（山の人に湖を知ってもらう）
- ②山と湖のそれぞれで活動する団体同士の繋がりをつくる

・参加のしやすさ（あたたかみ、手作り感  
のあるイベント）にしよう

・ワクワク感を大切に体験型イベントに  
しよう

・山と湖のそれぞれの活動団体が一緒に体  
験し、語り合う場を作ろう

・ホストする大人の存在が必要だから、大人  
向けのイベントにしよう

##### ■既に展開されている山と湖をつなぐ活動との違いは？

「大人が“ワクワク体験”をする」

『10月2日の報告』

『遊んで語ろう！湖のこと、川のこと～子ども達に伝えたい山・川・湖の魅力～』

主催：おうみ未来塾 11 期生 里山腹八分目チーム  
 対象：市内の山、川、湖の環境保全をしている大人

\*\*\*\*\*

【プログラム】

- 9:30～10:15 シジミつかみ
- 10:30～12:00 家棟川エコ遊覧
- 12:00～12:45 昼食（おにぎり各自持参、佃煮・しじみ汁準備）
- 12:50～13:30 話題提供：琵琶湖環境科学研究センター 佐藤祐一さん  
 「琵琶湖や家棟川の研究を通して見えてきた水環境改善のための課題や私たちに求められる取り組みについて」
- 13:30～15:30 意見交換会／ワールドカフェ形式  
 テーマ：「子どもに伝えたい山・川・湖の魅力」



●参加者 / 合計 30 人

一般	3 人
山部会	11 人
家棟川流域観光船	4 人
里山チーム	6 人
未来塾応援スタッフ	6 人
合計	30 人

◎ 意見交換会（ワールドカフェ）



《3つのテーマ》

- ①子どもに伝えたい山の魅力
- ②川、湖の魅力
- ③野洲の自然の魅力 ④食の魅力

《テーマごとに出てきた ★キーワード★

①子どもに伝えたい山の魅力

@山で遊ぶ @山の風景 @山の食べ物

②川、湖の魅力

@シジミや魚を自分でとって食べる楽しみ  
 @いろんな年齢、家族で楽しむこと  
 @身体で感じるここち良さ



③野洲の自然の魅力

@山、広大な平野、川、琵琶湖までのつながり  
 @遊べる、食べられる、楽しめる @空の広さ

④食の魅力

@伝統食、郷土料理など、食のつながりを体験する  
 @その地域でとれたもの、自然とのつながり  
 @育てるところから食べられるとこまで

※時間が超過するほど、活発な意見交換会の場になりました



「近くに自然の魅力がたくさんある」のに…  
 「地元の子どもが自然に触れる機会が少ない」「親が遊び方を知らない」

## ◎湖イベント・アンケート集計結果（抜粋）

＜午前中のプログラムの感想（シジミつかみ、エコ遊覧）＞			
・「童心に返ってシジミ採りを楽しくやらしていただき感動しております。	・久しぶりにハダシで砂浜の感触を楽しんだ。なつかしかった。	・地元にいながら家棟川遊覧は初めてで、川面の近い実感を楽しめた。	・びわ湖でしじみが獲れることを初めて知った。浜は案外きれいだった。
＜午後の意見交換会の感想＞ ・参考になった点、今後、あなた自身が取り組んでみたいこと、やってみたい活動は？			
・野洲にはもう自然の魅力がいっぱい！あとは、それをどう伝えていくか。	・地域、年代の異なる方々達との交流（意見・行動）は有意義でした。	・今まで「水」つながりで、山～湖を考えてきたが、「食」つながりもおもしろい。	・山～川～湖との連携を深める手だてとして、家棟ウォーキング・サイクリング等のイベントをする。
＜今日の感想、特に印象に残った点、里山チームへのアドバイス＞			
・意見交換会は今までしたことがなかったので新鮮な体験だった。	・未来塾のようなメンバーが触媒となって、地域の人たちが交流できる。	・イベントのPRにもっと力を入れて、より参加者を増やしてほしい。	・山～湖のつながりを具体化するための手法を検討してみてください。
・フィールドをともなった勉強会はよかった。	・地域の良さを再発見できるという機会は重要だし、貴重だと思います。ぜひ、続けてください。	・若い人達が熱心に活動されている事に感動しました。	

## ◎里山チーム間でのふりかえり

### ○湖イベントの目的の検証

目的	達成度	検証内容
①一緒に湖を楽しみ、良さを発見する。	○	裸足で湖に入って童心に帰って楽しめた。また、川面の風景や風を五感で楽しめたとの声。
②温かみのある繋がりをつくる。	○	山、川、湖の人が意見交換する場を作ることができた。

### ○湖イベントを終えての感想

- ・通常のセミナーと違う体験&意見交換会を実施でき、活発な意見が出たことがよかった。自然の魅力を語る顔は、皆さんいきいきされていた。地域の良さを再発見できる機会となったのがよかった。
- ・ワールドカフェ形式の意見交換会を出来たのは、未来塾ならではの、今回出た意見を次にどう生かすか。
- ・午前のシジミつかみは、皆大変熱中され、湖を楽しむという意味でとてもよかった。実際に楽しみ、ワクワクを共有することは重要だと実感した。

## ◆フィールド活動のふりかえり

### ◎メンバー各自がやり残したと感じていること

- ★継続的に関わってもらえそうな学生団体の発掘（立命館、滋賀県立大学など。）
- ★経済的に継続的な事業実施のできる団体への動機づけ（村田製作所の福利担当課、ラフォーレ琵琶湖など。）
- ★時代を先取りした提案（ファザーリングの森等）
- ★川、湖団体関係者への動機づけ。
- ★企業の福利担当課など WinWin の関係（職員の余暇創出など）で関わってもらえる団体の発掘。
- ★ラフォーレ琵琶湖など地元の体験観光コースを探している企業にも声をかけ、共に活動できれば面白かったかも。

### ◎メンバーそれぞれが学んだこと

- 1) 当初求めていたものからどのように変化し、
- ★食文化(里山)→山～湖への繋がりを通して、(野洲の場合)食で地域は繋がることのできる、と感じた。
  - ★1 回目のイベントは遠慮がちに地域の団体とともに活動したが、2 回目は勇気を持って自分たちの主張を出せたと思う。予想以上に反応良かったですね。
  - ★地域のためって何だろう、やりたいことのために集まっている団体だけでなく、個々の人々の声を探し出すこともそうなのかも。イベントでは、そんな声を聞けました。
  - ★チームで役割分担を初期段階で明確にすること

### 2) 活動を通して発見したこと、学んだこと

- ★「まずはやってみる」ことの意義を実感しました。始めれば一緒に進んでくれる人がいる。
- ★チームってありがたい！メンバーに感謝。
- ★地域プロデューサーはボランティア活動でしょうか？私はCB的な考えがないとデザインが持続して出来ないと思います。行政の方のイメージと、企業・起業と学生の人間のイメージでは予算から考えた施工と施工計画と予算計画のギャップがあると思いました。そこにはコンセプトの温度差もありました。

地域のことをよく知り、活動できたか？

山部会の方とビジョンを共有できたか？

- ★チーム全員で本当に合意形成が出来ていたか？働きながら全員が集まって意見集約まで持つて行く事は理想ですが、現実的には不可能でした。
- ★合意形成の難しさを実感。地域やチームの合意形成を丁寧にすることが活動の継続へと繋がる気がします。山部会さんや地元の人とももう少し交流の場が持てたらよかったです。
- ★在塾中に仕事や、NPO や選挙活動の中で自分なりに行動して「地域力」「地元力」を体験出来ましたが、地域の方にプロデュースの結果があまり残せなかったのが残念です。

### どのような学びが得られたか。

- だと思っています。予算計画も概算で明確にしておくべきだと思いました。
- ★自分の意志がしっかりしていなければ人を巻き込むことはできない。地域に入るといことは多くの人を巻き込むということなので、目的をしっかり自分やチーム内で確認することが大切だと思う。
- ★地域振興や、まちづくりは、地元住民が主体となって初めて継続されますが、「入り人」が主体となっても、「在所人」は中々活発に活動して頂けません。
- ★私達の立場は行政の仕事が縮小して公共が拡大していく中間の立場にあると考えます。それが新しい時代の人材の場だと思います。
- ★人それぞれの想いをまとめていくことの難しさを学びました。でも、想いが重なったときのチーム力の大きさも実感できました。
- ★「灯台もと暗し」で、地元の発見が意外と感動して頂けたり、部外者が「入り人」と、「在所人」を繋ぐ事により潤滑に事業が動く事が学びました。そして、「在所人」の頑固さが地域の慣習や文化を守る保守の精神の原点だと痛感しました。

◆フィールド活動全体を通して

○活動計画の検証

目的	達成度	検証内容
①地元の方の中から里山案内人・語り部（協力者）を5人以上発掘する。	○ △	キーパーソンとなる方々と出会えた。（山部会さんなど） 若手（大学生や若い保護者）への呼びかけがもう少しできればよかった。
②里山～琵琶湖トレイルのモデルコースを作り、地元の案内人（里山・川・琵琶湖）によるツアーを実施する。	△	きっかけづくりが出来た。地元案内人となる、大人の方のイベントを実施。意見交換会にて、地元からも「サイクリングトレイル」の声も。
③体験学習や遊びを通して多面的な里山の役割を若い世代に伝えるイベントを開催する。	○	里山子どもイベントの実施できた。里山の多面的な役割をしっかりと伝えられる内容の検討の余地あり。

\*\*\*\*\*

里山腹八分チームの「あゆみ

\*\*\*\*\*

～チーム誕生から成果発表会まで～

●2010年12月26日(日) チームづくり大作戦 里山チーム誕生

- ・地域資源、人材の発掘（野洲の大篠原を歩く、地域の方のお話をお聞きしに行く。）
- ・地域の里山の活動を知る（生産森林組合や、山部会の活動に参加）
- ・「里山腹八分目」チーム名決定 ・チームの目的や目標、活動計画を決定

●2011年2月6日(日) 目標発表

地域を知る手法として何があるか？地域と関わる手法の違いに悩む。

丁寧に信頼関係を築いていこう  
地元の人と関わり、地域を知ること  
に時間をかけるべき。地元の人  
の声が大切

心象絵図の手法を検討



外の人だからこそできることを意識  
しよう  
来塾生が持っている新鮮なアイデアで  
イベントを催し、地域おこしをしよう

山と湖でイベントを検討

心象絵図は里山チームが生まれた時のテーマから路線が大きすぎる。

チームの気持ちバラバラに。



地域と関わることも必要だが、目標をもって動かないと、具体的な活動が見えてこない。

**アドバイス** 既存の団体と一緒に活動してみても？（事務局から）

イベントを開催することで新たな繋がりも生まれる。  
その過程を通じて地域の人と関わることでよいのではないか？



時間的な制約がある為、このまま合意形成が出来ない状況が続くと、  
具体的なことが何もできないまま卒塾式を迎えることになりかねない。

## 自分たちに何ができるか？ とにかく、やってみる！！

・環境基本計画自然・山部会さんに協力依頼（事業提案）をする。

### ●2011年6月12日(日) 中間発表

・ミッションがわかりにくい。→野洲の特徴である“里山～琵琶湖の自然のつながり”を意識し  
地域のつながりを生み出す。を再確認。

### ●2011年8月7日(日) 里山子どもイベント開催

・山部会さんと一緒に里山イベントの実施。→山部会さんを交えた反省会の実施。  
・2回目のイベントに向けて、今後の目標・目的について再度話し合う。

### ●2011年10月2日(日) 湖イベント開催

・全体のふりかえりと反省

### ●2011年11月12日(日) 成果発表・卒塾式

・里山腹八分目は解散し、それぞれの活動へ

■チームミーティング20回、その他協力団体との協議、視察研修、イベント等を合わせると  
50回以上の活動となりました。書ききれないくらいの山あり谷ありを経て卒塾となりました。

皆さんお疲れ様でした m(\_ \_)m

### ◆地域に必要とされている地域プロデューサーとは？

#### ■チームであらためて話し合う

@熱い人 @地域の課題を発見し、解決の為に地域の人と一緒に施策を興せる人

@信頼できる人、人柄が大事 @一方的でなく、一緒にやりましょう！という形で関わる人

そんな神様のような人はいないから、チームの一人ひとりが補い合ってプロデューサー  
の役割を果たせばいいんじゃないかな・・・という結論に。

#### 地域プロデューサーとは？

地域の課題を発見し、解決のための方策を考え、そのための活動や事業を  
興すことができる人。課題発見力と政策形成力と実践力を兼ね備えた人。

# 個人からのメッセージ

## 氏名 枝元重樹



### Q. 入塾の想い（プロフィール含）

滋賀県の自然環境・人々に触れ合い、自身の持っているスキルを地域に役立てることができないか？との想いで入塾しました。

### Q. この2年間で学んだこと

地域を見る際に新たな目線が加わったことと、地域活動している方々とのネットワークが広がった。

### Q. これから取り組んでいきたいこと

現在参加している大津環境フォーラムの活動はもとより、企業における地域社会との交流を推進する取り組みを考えていきたい。

## みんなのメモリアル写真



入塾式



北村塾長のご挨拶



入塾記念撮影



交流会で打ち解ける

## 氏名 大橋 優子



### Q. 入塾の想い（プロフィール含）

お絵描き教室の講師をする中、しょうがい児者そしてその家族と接することが多くなり何か私にもできることはないかと、考え入塾しました。

### Q. この2年間で学んだこと

『マンパワー』の大切さ、つながりの大切さ、当事者意識を持ち地域の課題に取り組む大切さ、を学ぶことができた。一人ではできないこともたくさんの人が集まれば何かを産み出す力になる！

### Q. これから取り組んでいきたいこと

少しでも多くの方に、しょうがい者に対する心のポーターがなくなるような活動をしていきたい。居心地のいい地域を育ててたいです！



北村塾長の地域プロデュースについてのお話



グループで意見をまとめるのは大変



白王町の水郷を活かした取り組み



地元農家のおいしいご飯！

## 氏名 尾 賀 隆



### Q. 入塾の想い（プロフィール含）

滋賀への観光客の数を少しでも増やして、滋賀にお金を落としてもらえる手助けができればと思いから入塾。

### Q. この2年間で学んだこと

会社の中に、地域貢献を専任で行える人を抱えることができれば、会社が地域プロデューサーになることが可能であること。

### Q. これから取り組んでいきたいこと

今の事業を拡大し、社会的に認められる段階にできるだけ早く到達し、地域貢献のための専任の人を送り出せるようになります。

13期生を当社から送り出します!!

## みんなのメモリアル写真



権座へは船で行く



権座内の田んぼを見学



高島市の本講座は一泊する合宿プラン



グループで意見をまとめて発表する

# 氏名 奥村 元

## Q. 入塾の想い（プロフィール含）

趣味と興味が活かせる楽しい生活、地域を目指して、市民活動から出来ることを探っていきたい

## Q. この2年間で学んだこと

市民活動の現場の様子、実践者の姿、他の塾生の活動からの刺激、考え方、手法などの座学

## Q. これから取り組んでいきたいこと

衣食住の生活の中で持続的な社会貢献を取り込む。地元の活力づくりに貢献し、住みよい充実した地域を作る。



地元の風土・文化を説明



やな漁



マキノの観光案内



夜はご飯を食べながら交流を深める

氏名 小野元嗣

Q. 入塾の想い（プロフィール含）

NPO法人自然の恵み 代表理事として補助金に頼らない運営と人脈拡大の学びを頂きに参りました！

Q. この2年間で学んだこと

「地域学」と「地元学」の重要性や、「在所人」と「入り人」との関わりの難しさを特に学びました！

Q. これから取り組んでいきたいこと

人と地域をコーディネートしながら「持続可能な社会」創りに取り組みます！



みんなのメモリアル写真



2日目の朝はケートラの荷台に乗って移動！



みんなで景色を堪能



畑地区は「日本の棚田百選」に選ばれている



高島の農業の取り組みについてのお話

## 氏名 梶 卓 司



### Q. 入塾の想い（プロフィール含）

きっかけは、2010年4月の三井寺の夜桜ライトアップの日に生まれて初めてtwitterのオフ会に参加したメンバー（枝元さん、尾賀さん）からの紹介からでした。自治会役員からみた地元地域の高齢化や情報伝達など、何かICTを使って面白いことが出来ないかと考えて入塾しました。

### Q. この2年間で学んだこと

まだまだ滋賀県で行っていない魅力ある地域がいっぱいあることを基礎実践コースを通して感じる事が出来ました。そして、そこには地域のために頑張っている人達や未来塾の先輩方が活動されておられた事にも感銘を受けました。地域プロデューサーとして人と人をつなぐファシリテーターとしてのスキルを習得することができたことは個人的に成果だと思っています。

### Q. これから取り組んでいきたいこと

この二年間に行った場所や人をもっと広く外に知らしめる仕掛けをFacebookなどのSNSを通して広めていきたいと考えております。同期のメンバーの横軸と先輩方との縦軸を絡めて、いずれは地元滋賀を活動拠点として起業する夢も叶えていきたいと思っております。



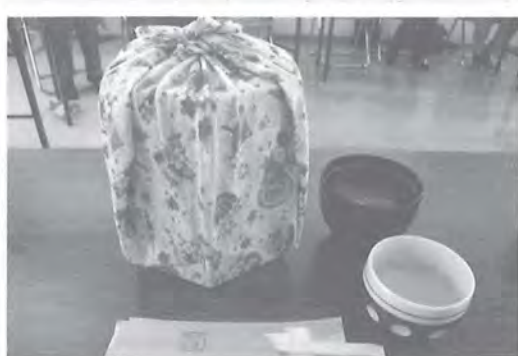
高島市の魅力を伝えるマップ



北比良グループのお話



手作りお味噌の解説



美しいお弁当をいただきます！

## 氏名 川本 哲 慎

### Q. 入塾の想い（プロフィール含）

私は芸術集団m-fat(モファ)の代表として、より地域にアートを広げる活動へと展開していく事を旨として入塾しました。

### Q. この2年間で学んだこと

地域をプロデュースする為には、夢を語り合い、行動し合える仲間を作ることから始まる。

### Q. これから取り組んでいきたいこと

同じ方向性を持った仲間を大切に、仲間を広げ、人を育てていける場所を作っていきたい。



## みんなのメモリアル写真



円になって全体会議



今回の本講座は余呉で開催！



地域社会・歴史・風土は密接に関わっている



質問する名越さん

氏名 駒井 絵里子

Q. 入塾の想い（プロフィール含）

自分のまちが大好き!! という人がたくさんいるような地域づくりができればいいなと思い、入塾しました。

Q. この2年間で学んだこと

改めて、滋賀県の魅力を発見できたことと、実際に地域に入り、チーム活動をする事の難しさを学びました。

Q. これから取り組んでいきたいこと

滋賀県の栄養教諭として、地場産物を活用した給食づくりや家庭、地域を巻き込んだ食育に取り組みたいです。



質問する小野さん



質問する鋒山さん



グループで意見をまとめて発表



お寺を拝観

氏名 柴田 雅 美

Q. 入塾の想い（プロフィール含）

びわ湖の東部・北部をフィールドに、地域づくりを共に考える仲間を見つけよう。

Q. この2年間で学んだこと

人はその気にさせることが肝心なんだ。

Q. これから取り組んでいきたいこと

老若男女、あらゆる人をその気にさせる仕組みを作ります。  
喜ばれる人、日本一でいきます。よろしくお願いします。



みんなのメモリアル写真



長浜の中心街のまちづくりを進める吉井さん



街全体をデザインする



地域を創るのオリエンテーション



街には賑やかな催しが！

# 氏名 徳 永 操



## Q. 入塾の想い（プロフィール含）

フリーランスであることが、何ものにも所属せず自由である一方、井の中の蛙となりがち。広く社会に飛び出し関わりを持つことで、自分を含む世界とつながり、社会に役立つはたらきがしたいと思い入塾しました。

## Q. この2年間で学んだこと

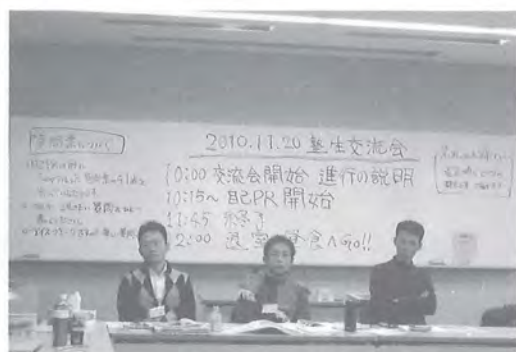
自分自身が多様であり、ひき出しを沢山持っていることで、他者の個性をひきき出し、受け入れ、活かせるということを学んだ。また、「ひと」と関わり、取り組むしごとが好き」な自分に驚いた。

## Q. これから取り組んでいきたいこと

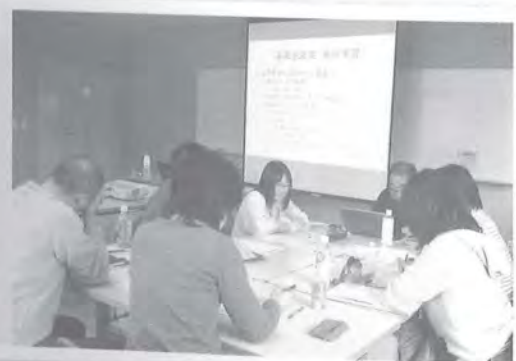
“ひと”とつながることで多様な考えにふれ、気づき、考え、社会に役立つはたらきをしてゆきたい。それと同時に、生きがいをもって関われる仕事を沢山うみだしてゆきたい。



度派手な車が登場



塾生交流会開始！



自己PRをする



自分の出来る事は何なのか？

氏名 富田 宗伸



Q. 入塾の想い（プロフィール含）

市民活動って社会を潤しているよな、未来をつくっているよな。人のちからってなんなんだろう？。という想い。

Q. この2年間で学んだこと

「思いの万有引力の法則」。純度のたかい思いのあるところ、多くの思い、強い思いが集まるのかな。チームに感謝。

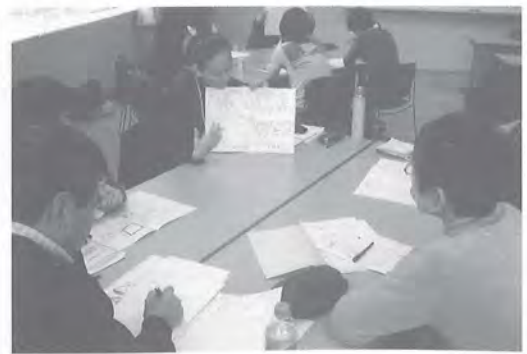
Q. これから取り組んでいきたいこと

人と自然。自然から学び、自然に感謝。アウトドア教育というと大げさですが、そのようなことに。

みんなのメモリアル写真



熱い話し合い



合意形成するためには、まず相手を知ること



相手の過去、現在、未来を知る



手を繋いでコミュニケーション

## 氏名 中川 正 夫

### Q. 入塾の想い（プロフィール含）

ライフワークとして始める故郷での活動の入口として、地域活動に必要な基礎知識の習得と人脈づくりを目的に入塾。

### Q. この2年間で学んだこと

地域活動には、その地域に対する強烈な思い入れを持ったリーダーと、それと志を同じくする仲間が必要であるということ。

### Q. これから取り組んでいきたいこと

学んだ知識とネットワークをフル活用して、故郷である大津の「まちづくり」活動に楽しみながら携わっていきたい。



自分の思いを素直に言えるかな



自分の思いを発表する



グループが決まったら次は事業内容



みんなの方向性を探る

## 氏名 中塚 洋子



### Q. 入塾の想い（プロフィール含）

「京阪神地域千四百万人の水源・琵琶湖」を**本当に**「美しいびわ湖」として残してゆくために、「自然環境に貢献する持続可能な地域社会づくり」として、びわ湖畔で自然と共生した拡大家族の小さなコミュニティでの暮らしのモデルを創ります。

### Q. この2年間で学んだこと

完璧を求めずに、失敗を恐れずに「懐に入って」「根回しをして」「やってみる」と「課題が見える」「次に進む」ことが出来る。

その為には「人」「時間」「場」「お金」と、慌てずに焦らずにゆったりと着実に関わり、信頼関係を**怠らず**に深めて行くこと。

### Q. これから取り組んでいきたいこと

ファシリテーターとして「参加型社会づくり」へ貢献しながら、小さなコミュニティ・ビジネスを創出します。

各地域の拠点に沿った催しを企画&開催し、地域を楽しく出来る仕組みづくりに取り組み、総意でものごとを進めて行く**心地良さ**を実感してもらおう。

## みんなのメモリアル写真



思いを書き出していくと見えてくる



目標発表会で事業内容を語る



アドバイザーからの鋭い指摘



アドバイスを頂くのは貴重な時間

## 氏名 名越文代



### Q. 入塾の想い（プロフィール含）

当事者中心主義の北欧高齢者福祉のいいところを少しでも地域に取り入れられないかと考えたこと。

### Q. この2年間で学んだこと

前半のプログラムで、滋賀県内で地域活性化に地道に取り組んでおられる先進地を訪問できたこと。

後半は4班の一つ（ほっと commons）で、仲間の人間性に触れながら活動が出来たこと。

### Q. これから取り組んでいきたいこと

ほっと commons の仲間との交流、同級生との交流の続行。

レイカディア（社会福祉法人・滋賀県社会福祉協議会主催）大学2011年卒の同級生と大津街中散策、フォトウォークを続行。



アドバイスを事業に活かすことができるかどうか



問題点を確認、修正する



全体塾生会で事業の方向性を確認する



途中経過を発表する+nico

氏名 橋本 すみ江



Q. 入塾の想い（プロフィール含）

集団が苦手。論理だった話ができない。人のお世話が嫌い。…そんな私でも地域で役立てる？（このままでは老後が心配(^^)）

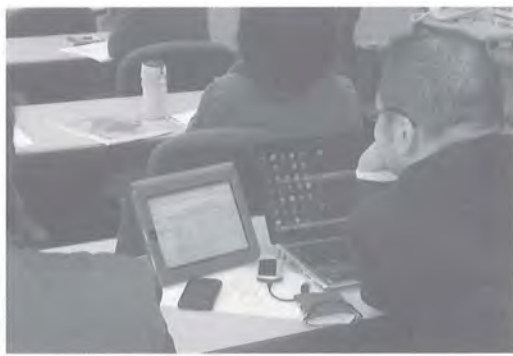
Q. この2年間で学んだこと

自分の意志で動く。がんばれば隣でがんばっている人に気づく。一緒にやろう感や、がんばった後のスッキリ感が楽しい。

Q. これから取り組んでいきたいこと

ライフワークを見つけない。自分自身の軸足を置く活動があってこそ、地域課題に取り組めるのではないかと思う。

みんなのメモリアル写真



ハイテク技術を駆使する枝元さん



他のグループの行動もチェック！



COOLBIWAの中間発表



ほっと commons の中間発表

## 氏名 藤本 宏

### Q. 入塾の想い（プロフィール含）

地域ならではの環境や、まちを形成している構造により生み出た「問題」について知りたいと思い門をたたきました。

### Q. この2年間で学んだこと

知ろうとすることの大切さと、知ったことの大切さ。それらを踏まえて考え行動する第1歩の重要性。

### Q. これから取り組んでいきたいこと

過去の経験も活かし、安全・安心の分野でのまちづくりに携わりたい。



里山腹八分目の中間発表



内容を何度も改善、確認する作業が大切



絶品のチキンライス



次に向けての話し合い

## 氏名 鋒 山 己之助



### Q. 入塾の想い（プロフィール含）

私の仕事が建築事務で、地域や風土とともに暮らせる持続的な環境に関心がありました。この課題に同じジャンルの者が取り組むより多くの客観的視点や観点を知る事でスキルアップになると思いました。

### Q. この2年間で学んだこと

前半の講義とフィールドワーク、後半のグループ活動で、地域の課題や取り組む姿や行政依存型と自主的活動意識のギャップと本当の合意形成とは何か？妥協する事なのか、お互いに理解しあう事なのか？初めにこの事をしっかり決めておく事です。

### Q. これから取り組んでいきたいこと

コンストラクションマネジメントもしながらコミュニティデザインマネジメントにも挑戦したいと思います。

## みんなのメモリアル写真



全体塾生会



ホワイトボードで分かりやすく表示



なんと！今回の場所は競艇所！



ボートに乗れる！！

## 氏名 堀江景子

### Q. 入塾の想い（プロフィール含）

大学時代、里山の魅力を子どもたちに伝えるNPOを立ち上げました。就職で地元滋賀に帰り、滋賀で何かやってみたい、同じような思いを持った仲間がほしいという思いから入塾を決めました。



### Q. この2年間で学んだこと

チームリーダーは初めての挑戦で、進めていけなくちゃと焦って義務感に見舞われたり、かといって楽しいことを追求すると活動の目標とずれてしまったり。そんな中でも、メンバーとの活動で、一人では絶対に得られない考え方や視点に気づかされました。

### Q. これから取り組んでいきたいこと

塾という枠は外れますが、失敗を気にせず、とにかくいろんな場に出て人と出会い、自分のやりたいことを明確にさせていきたいです。本業もおろそかにしないというか、むしろいい意味で利用していきたいと思っています。



さて、当たるかな？



代表者会議は緊迫ムード



大橋さんは絵が上手。



かわいい。かわいすぎる。

## 氏名 牧野宏美

### Q. 入塾の想い（プロフィール含）

私は大阪府在住だが、滋賀県や地域には自然や食など魅力がいっぱい。そんな地域の魅力を発掘・発信し、地域を盛り上げたい。事業として回る仕組みづくりも学びたい。



### Q. この2年間で学んだこと

地域プロデューサーには、この課題をなんとかしたい！という思い、地域との信頼関係づくりが欠かせない。地域へ入ること、チームでの合意形成の難しさを学んだ。また、地域の人とワクワクを共有する大切さを学んだ。

### Q. これから取り組んでいきたいこと

野洲の里山の方と顔馴染みになってきたところ、継続して関わりたい。若手の友人や学生を、野洲と繋ぐ役割が出来たら。また、農×コミュニティなども興味があり、関わってみたい。

## みんなのメモリアル写真



卒塾の記念品を包装する風さん



かわいいデザインの作者は大橋さん



成果発表会の資料の挟み込み



満足の出来栄え！

## 氏名 水谷 友香子

### Q. 入塾の想い（プロフィール含）

市民活動をされているみなさんの立場に想いを馳せ、相手を理解し合い、互いに同じゴールに向かって話ができる場をつくるヒントを得たい。



### Q. この2年間で学んだこと

ひとりひとりの熱い想いから全てが始まる。その想いを人や社会に伝えて共感を得ることの大切さとその想いがカタチになる過程には、さまざまな人の力や想いが重層に織りなされていること。

### Q. これから取り組んでいきたいこと

ひとりひとりが持っている「もの・こと」や「立場」の違いを互いに認め合いながら、違いを活かせる話し合いの場や関係づくり。



成果発表会



司会進行は堀江さん



塾長のお話



ほっと commons の発表

## 氏名 村上 真規

### Q. 入塾の想い（プロフィール含）

仕事で市民協働に関わっており、市民活動を学ぶとともに、自らのネットワークを広げたいと考えました。

### Q. この2年間で学んだこと

目的はシンプルに、まず実践！

合意形成は、目的と方向性についてきっちり。実践内容は情報共有をしっかりと。

### Q. これから取り組んでいきたいこと

地域（土の人）と外部（風の人）のつなぎ役として、どっしり根を張ってがんばっていきたいです。



## みんなのメモリアル写真



地域の子供達と制作した街のマップ



+nicoの発表



アドバイザーからのお褒めの言葉もでた。



COOLBIWAの発表

## 氏名 山口 智 大



### Q. 入塾の想い（プロフィール含）

農業振興と地域活性化に強い関心を持ち、地域プロデューサーという言葉に憧れて、おうみ未来塾に入塾しました。

### Q. この2年間で学んだこと

地域の課題に取り組むための視点や考え方、その難しさを学び、滋賀県の魅力を知りました。

### Q. これから取り組んでいきたいこと

自分の課題と地域の課題とを重ねていくことができれば、人生の目標として取り組んでいけると思います。



2年間でプレゼンも慣れてきました。



里山腹八分目の発表



卒塾証書授与



卒塾の言葉を述べる駒井さん

## 氏名 山本 泰裕

### Q. 入塾の想い（プロフィール含）

2年前あるメンターに「あなたはプロデューサーに向いている！」と言われ、全くピンとこなかったけれど、様々な出会いに導かれ、気付けば今ここにいる。米原をカッコよくして若い世代が集まる街にしたい！



### Q. この2年間で学んだこと

とにかくやってみること、ミッションを見失わないこと、仲間としっかり議論すること、仲間を増やしていくこと、これが大切。仲間同士の合意形成は非常に難しい。地域の人々との信頼関係構築には時間と忍耐が必要。

### Q. これから取り組んでいきたいこと

湖北・湖東の文化、歴史、農林漁業、ものづくり、教育、福祉、その他いろんな分野を融合して、独自の魅力を創り上げていく、オンリーワンの「地域デザイン」を、趣味ではなく仕事・事業としてやっていく！

## みんなのメモリアル写真



最後まで大切なディスカッション



笑顔満点！お疲れ様～



豪華なお食事



アドバイスを頂く

## 氏名 吉田 遊 介



### Q. 入塾の想い（プロフィール含）

「まちづくり」や「地域活性化」に関心があり、地域に貢献できる取り組みがしたいと思い、入塾しました。

### Q. この2年間で学んだこと

実のある地域活動には、地域に対する熱い想い、人との“つながり”、また戦略性や行動力が必要だと学びました。

### Q. これから取り組んでいきたいこと

持続可能で、楽しく地域活動をしたいです。住みよく、より良い地域にするための仕組みづくりに貢献したいです。



励ましの言葉



最後に残るのは誰だ！



閉めの言葉



これからもがんばるぞー！

## 淡海ネットワークセンター事務局からのメッセージ



淡海ネットワークセンター  
常務理事・事務局長  
歌代 泰和

### 「笛吹けど踊らず」

「笛吹けど踊らず」人は思い通りに動いてくれません。これについてプロダンサーで振付家の北村成美さんはこう語っています。「人が踊りたくなるような仕掛けがないと人って踊れないんですよ。踊りなさいって言われてやる踊りは、何か弾ける瞬間とか、何かを生み出す瞬間みたいなものが薄れてしまい、心に届いてこない作品になってしまいます。人が自ら進んでチャレンジしたくなるような題材をどこまで発想できて、それをどこまで共有できるのか、振付家として私自身の力量が問われています」人が自発的に動き、人の共感を得るような活動を見なさんと共にプロデュースしていきたいと思えます。



淡海ネットワークセンター  
事務局スタッフ  
遠藤 恵子

### 未来塾の仲間は「癒しの場」

11期生の皆さん、卒塾おめでとうございます。新しいプログラムになっての初めての入塾生、私も楽しみにしていました。年代がこれまでで一番若く、多彩な人材がそろって、1年目の講座の出席率が高く、新たな未来塾の幕分けとなりました。多彩な人材が混じり合う塾は、「自分が育つ塾」にとっては大切な要素です。グループ活動での悩みも成果も、そのこと自身が学びですから、そのことを共有した仲間は、人生の上で大切な友人になったことと思えます。これから地域でどんな形であれ活動をするときにこの仲間は「癒しの場」になり得ると考えますので大切に育んでください。皆さんのこれからの活動を楽しみにしています。



淡海ネットワークセンター  
事務局次長  
村井 秀高

### 塾で培われた力を地域へ！

卒塾おめでとうございます。未来塾生の皆さんとお付き合いの接点は少なかったが、沖島での講座やグループ活動の発表会、卒塾式やその後の交流会等に参加させてもらう中で、塾生の皆さんの地域へのこだわりや行動力さらにはネットワーク力には感激しました。現状の社会の枠組みやそのシステムには限界が見えるなか、「協働」ということが言われて久しくなりますが、これを実践するには、提案力やコミュニケーション力とともに、人をつなぎ行動するチカラがないとなかなか実現しません。この力は未来塾でいう「地域プロデュース力」でもあります。地域には少子化、高齢化、過疎化等々様々な課題あり、それに対する地域からの対応力が求められています。未来塾で学ばれ、培われた力を皆さんの地域で発揮していただければと思います。頑張ってください。



淡海ネットワークセンター  
事務局スタッフ  
坂下 靖子

### 出会いを宝に

11期生のみなさん、ご卒塾おめでとうございます。たくさんのお会いがあった1年6カ月だったのではないのでしょうか。同期の仲間、フィールドワークでの出会い、グループで関わった地域の方々などなど、出会いから発見や学びを重ねて来られたことと思えます。おうみ未来塾で得られる地域への視線や地域へ関わる経験とともに、年齢、地域、職業などを越えた仲間との出会いは未来塾の宝ですね。仲間との絆を深め、さらに広げて、一生の輝く宝にしてください。みなさんのますますのご活躍をお祈りしております。



淡海ネットワークセンター  
事務局スタッフ

江波 千佳

ご卒業おめでとうございます。

おうみ未来塾11期生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。この1年6ヶ月間の長期の塾活動お疲れ様でした。

私はネットワークセンターで始めて、「地域プロデューサー」という存在を知りました。そして、皆さんの活動を通して、その内容を少しずつ理解することができました。その中で、一番印象に残っているのは、皆さんの活動に対する情熱です。幅広い年齢の方が、仕事・学業その他色々な本業をもちつつ、忙しい中で活動されていることに頭が下がる思いをしました。どうか卒業後も、その情熱を絶やすことなくご活躍されますことをお祈りしています。



淡海ネットワークセンター  
事務局スタッフ

萩原 利花

11期生の皆さん、

ご卒業おめでとうございます。

11期生のみなさんとご一緒させて頂いたのは塾生会議だけだったのですが、お互いのグループ活動について、活発に率直な意見を出し合っている姿が印象的でした。質疑応答では厳しい意見も出ていましたが、同じ立ち位置で出す意見だからこそ、グループ内では見えていなかった事が見えたりして、その後のグループ活動に活かすことが出来るのだと感じました。

今後、みなさんがそれぞれの地域でご活躍されることを楽しみにしております。また、センターにも遊びに来て下さい。お待ちしております。



淡海ネットワークセンター  
事務局スタッフ

膽吹 憲吾

卒業おめでとうございます！

卒業おめでとうございます。思えば、皆様と共に成長させていただいた16カ月でした。短い期間でしたが、濃密な出会いと議論がされていたと思います。いつもみなさんのメーリングリストを見ると伝わってきて胸を熱くさせられました。地域プロデューサーという言葉の意味は人それぞれにあって、みなさんが、はれて地域プロデューサーと呼ばれるようになったときの地域社会を見るのが楽しみです。また淡海ネットワークセンターで元気な地域プロデュース談議に花を咲かせましょう！

## 編集後記

未来塾11期生の思い出は  
そのまま報告書を見ることで蘇る  
思い出の写真アルバムとなれば幸いです。

編集委員一同

## 表紙デザイン:大橋優子

地域と人、自然や思い、そして11期生が  
つながっていきますようにという  
意味を込めて作ったものです。

## タイトルの由来

Think globally Act locally という標語があるんです。要するに地球を考える。グローバルに考えて、ローカルに行動するとなっていますが、僕から言うとそうではないのです。ローカルに考えて、ローカルに行動したらいいんです。それを全部徹底してやったら、そのローカルは必ずグローバルになるんです。逆に言うと、地域できちんとやったときにこそグローバルになる。地域をいい加減にしたらグローバルになりません。だから、僕はあの言葉は Think locally Act locally でいいんじゃないか。そしたらまさに、It becomes globally というふうになんかたぶんなるだろう。

おうみ未来塾2期生入塾式  
記念講演「おうみって何？未来って何？」  
おうみ未来塾 塾長 日高敏隆先生講演録から抜粋

**「未来への道しるべ」**  
**Think locally, Act locally.**  
**It becomes globally.**

おうみ未来塾第11期生卒塾報告書

発行年月：2012年2月

企画・編集 おうみ未来塾11期生

発行元：淡海ネットワークセンター（公益財団法人淡海文化振興財団）

〒520-0801 大津におの浜1-1-20 ピアザ淡海2F

TEL：077-524-8440/FAX：077-524-8442

E-mail：office@ohmi-net.com

ホームページ：http://www.ohmi-net.com/

